

事項一六 反過激派関係雑件

七〇二 三月十二日 松平欧米局長「会談」
マゴマエフ大佐

セミヨーノフ將軍ガマゴマエフ大佐ヲシテ日

本ノ援助ヲ要請セシメタル件

セミヨーノフ代表者マゴマエフ大佐ト松平欧米局長ト

ノ会談要領(佐々木領事誌)

大正十年三月十二日「セミヨーノフ」代表者「マゴマエフ」大佐ハ外務省ニ松平欧米局長ヲ来訪シ会见時間ヲ節約スル為要件ヲ手記シ来リタリトテ「セ」將軍ヨリノ来翰(別紙添付訳文^{註1})ノ通但シ同書翰中ニ記載シアル「三月十二日ノ期限」ハ省略セリ)ヲ読上ゲ右ニ對スル同局長ノ意見ヲ求メタリ

松平局長ハ先ヅ「マ」大佐ガ聞カント欲スル所ハ帝國政府ノ意見ナリヤ否ヤヲ確メ帝國政府ノ意見ヲ承知セントノ意向ナレバ自分限リニテ即答シ能ハザルモ自分一己ノ私見ナレバ歛ンデ開陳スベシトテ談話セル所左ノ如シ

シ一敗地ニ塗レンカ却テ過激派ヲシテ一層其地歩ヲ鞏固ナラシムルニ至ルベシ余ハ「セ」將軍ノ為ニ計ルニ暫ク隱忍シテ時機ノ熟スルヲ待ツヲ良策ト考フ

(一)「セ」將軍ノ拳兵ニ對スル日本ノ援助如何ニ關シテハ日本ハ大正七年以來同將軍ノ為ニ巨額ノ資財ト武器、彈藥並ニ幾多ノ人命ヲスラ犠牲ニ供シタルガ露反過激派ノ勢力振ハズ遂ニ今日ノ不成績ニ終リ日本国内ニ於テモ一部人士ノ間ニ物議ヲ醸シ政府攻撃材料ノ種トナリ居レリ故ニ今後相當ノ効果ヲ収ムベシトノ見込立タザル限リ政府ハ国民ノ輿論ニ反對シテ迄モ「セ」將軍ヲ援助スルコトナカルベシト考ヘラル況ンヤ列國ハ日本ノ立場ニ對シ常ニ猜疑ノ眼ヲ以テ環視シツツアルニ於テオヤ

(二)「セ」將軍ガ大正七年蹶起シテ以來終始一貫孤節ヲ守リ反過激派運動ノ為ニ身命ヲ賭シテ顧ミザル牢乎不拔ノ精神ハ真ニ同情賞讃ニ値ヒス然レドモ將軍周囲ノ人物ハ必ズシモ然ラズ否寧ロ「セ」將軍ノ声価ヲ損傷セルハ一ニ懸ツテ彼等ニ在ルガ如シ「セ」軍ノ將卒ハ慘虐暴戾ニシテ住民ハ之ヲ歡迎シタリトハ認メ難シ幕僚ノ如キモ後貝加爾ノ一角ニ蟄居シテ天下ノ大勢ヲ知ラズ暴威ヲ揮フヲ以テ武威揚

(一)「セ」將軍ハ西部西比利亞ノ住民ヨリ首領トシテ推サレ

タル旨ヲ述ブルト雖斯ノ如キ情報ハ從來同將軍ヨリ屢々聞込ミタル所ナレドモ毎時モ何等具體的ノ組織モ統一モナキ民衆ヲ指スモノニシテ仮リニ彼等ノ推撰アリトスルモ之レヲ以テ直チニ西部西比利亞ニ於ケル主權者トシテ承認シ得ラルベキモノニアラズトテ先ヅ「セ」將軍ガ露国民ヲ代表スト云ヘルハ全ク僭稱ニ過ギザル旨ヲ暗示シ話頭ヲ軋ジテ「元來過激主義ハ日本ノ國体ト全然相容レザルモノニテ一歩タリトモ斷ジテ日本ニ入レシムル能ハズ又露国内ニ於テモ之ノ主義ノ撲滅セラルルヲ切ニ望ムモノナリ然レドモ過激主義ハ一部人士ノ空想ニシテ到底永久存続スベキモノニアラズ早晚必ズヤ国内ノ不平分子特ニ農民ハ蜂起シテ叛旗ヲ翻ス時機来ルベキハ之レヲ予見スルニ難カラズ随テ一二地方ニ人心ノ動揺アリトモ尚過激派ノ根蒂強ク機未ダ熟セザルニ當リ輕率事ヲ挙グルハ徒ニ過激派結束ノ宣傳材料ニ供セラレ且精力ヲ消耗スルモノニシテ慎マザルベカラズ若

レリトナシ人民ノ信望ヲ繋グ能ハズ遂ニ現下ノ情勢ヲ馴致シタルモノトス「セ」將軍ハ特ニ此ノ点ニ關シ留意シ一層民主的政見ヲ施行スルノ覚悟ト準備ヲ有セザレバ徒ニ時勢ニ逆行シテ其成效ハ収メ難カルベシ

(二)「セ」將軍一派ハ氣宇狭小ニシテ「エス、エル」系ヲ排斥セルハ誤レルノ甚敷モノナリ元來「エス、エル」党ハ反過激派ニ屬ス然ルニ過激派軍ニ對抗シテ立テル「セ」軍ガ之レト提携シ能ハザルハ不可解ノ事ニ屬ス各個単独ニ敵ニ當ラバ過激派ハ別々ニ之レヲ引受逐次順ニ討滅スルノ策ニ出デ比較的容易ニ對手ヲ屈服シ得ベシ露國ノ復興事業ハ露人ニ取リテハ異常ノ重大事ニ屬ス区々タル感情ノ衝突及ビ主張ノ小異ハ一切之レヲ打捨テ過激派撲滅テフ大傘ノ下ニ合同協力スルニアラザレバ「セ」將軍等如何ニ藻掻クトモ到底有利ニ時局ヲ收拾シ能ハザルベシ

以上

註一 別紙添付訳文記録中ニ無シ

2 「エス、エル」ハ社会革命党(Socialist Revolutionary)

七〇三 三月十二日

在英國林大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

歐洲各地避難露國人ノ反過激派団体ノ運動ニ

付報告ノ件

第三二三号

(三月十三日接受)

昨秋「ウランゲル」軍総崩レ以来歐洲各地避難ノ反「ボリセビキ」政治諸団体ニ属スル露国政治家間ニハ此ノ際右ハ保守党ヨリ左ハ社会党ニ至ル迄結束シテ一団トナリ「ボリセビキ」政府ニ対抗シ露国ノ利益ヲ擁護スヘシトノ説行ハレシ結果十月党ヲ中心トスル各社会黨員ハ之カ主トナリテ旧上下両院民選議員団ノ名ノ下ニ諸政治団体ノ結束ヲ計ラムトシ非社会黨員ハ之ニ賛成シ社会黨員中ニモ之ニ賛成シタルモノ鮮カラサリシモ社会革命党ヲ中心トスル社会党ハ之ニ反対シ別ニ自ラ之カ主トナリテ旧憲法議會議員団ト称スル民主的政治団体ノ結束ヲ計ラムトシ社会党ハ之ニ賛成シ非社会党ノ左翼立憲民主黨員ノ一派之ニ賛成シタリ然レトモ社会民主黨員ノ一派ハ社会党カ非社会党ト提携スルヲ非トシ茲ニ於テ反「ボリセビキ」諸政治団体ノ結束運動ハ不成功ニ終ルニ至レリ反「ボリセビキ」諸政治団体ハ其ノ社会党タルト非社会党タルトヲ問ハス「ボリセビキ」政府ハ早晚經濟の破壊ノ絶頂ニ達シテ内部ヨリ瓦解破滅ニ帰ス

ヘシトノ意見ニ一致スルモ後者ハ同政府カ速ニ瓦解ニ帰スルニハ外部ヨリノ兵力干渉ヲ必要トシ又同政府倒レテ後ニ又之ニ代ルヘキモノハ非社会党政府ナリトスルニ反シ前者ハ之カ為ニハ外部ヨリノ兵力干渉ハ不必要ニシテ又之ニ代ルヘキモノハ社会党政府ナリトセリ斯クノ如ク上下両院議員団ハ勿論憲法議會議員団モ亦大体ニ於テ「ボリセビキ」政府ヲ敵トスルモ主トシテ猶太人ヨリ成レル社会民主党「マルトフ」「アブラモウウィッチ」一派ハ「ボリセビキ」政府ト妥協シ露国ニ歸リ「ボリセビキ」政府ニ公認セラレタル政府反對党トシテ平和手段ニ依リテ同政府ト争ヒテ其ノ瓦解顛覆期ヲ早ムルコト得策ナリトセリ此ノ説ハ「ボリセビキ」政府カ瓦解後当然發生スルノ危険アル所謂「ボグロム」(猶太人征伐)ノ防止ヲ旨トスル内外猶太人ノ運動ニ出テタルモノニシテ同運動ハ当初裏面ニ於テ行ハレタルニ過キサリシモ反「ボリセビキ」ノ総崩レ以来次第ニ露骨トナリ今ヤ妥協説ハ社会革命党及立憲民主党内ノ猶太人間ニ間接ニ支持セラルルコトナレリ但シ妥協説ノ実現ハ形勢ヲ見ルニ敏キ猶太人カ一般ニ内心妥協ヲ希望スルニ拘ラズ之ヲロニスルヲ得ザルニ顧ミ頗ル疑問ト言ハザルヲ

得ズ

七〇四

五月二十六日

在浦潮菊池総領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

浦潮ニ於テ民兵ノ一部及カッペリ軍ガ諸官衙

占領並現政庁ノ惡政除去ヲ宣言ノ件

第一二〇号

(五月二十六日接受)

五月二十六日午前十時半当市ニ在リタル民兵ノ一部ハ予テ当市ニ入込ミツツアリシ「カッペリ」軍ト妥協シ何レモ旧露国国旗ナル三色ノ腕章ヲ纏ヒツツ現政庁ニ対シ「カッペリ」兵ト共ニ反旗ヲ掲ゲ同十一時主ナル諸官衙ヲ占領セリ此間数発ノ銃声アリタルノミ又当市在来ノ民兵中ノ一部ハ右反軍ニ抵抗シ射撃ヲナシツツアリ只今迄ノトコロ「カ」軍側ニ死者一名アリタルノミ而シテ反軍ハ一方現政庁当路者ガ共產主義ナル「チタ」政府ノ手先トナリ其宣言ニ反シテ言論其他一切ノ自由ヲ束縛スルノミナラズ恣ニ貨幣制度ヲ改メ又ハ旧紙幣ノ流通廃止ヲ令シテ人民ヲ塗炭ノ苦境ニ陥レタルハ人道上忍ブ能ハザルモノナレバ吾人ハ斯ル惡政ヲ除去スルガ為ニ起ツモノナリ云々ノ革命委員會ノ名ヲ以テ宣伝「ビラ」ヲ市中ニ散布シツツアリ市中人心多少動揺

ノ模様アルモ割合ニ平静ニシテ何レモ近々此事アルヲ予期セルモノノ如シ
不取敢御参考迄

七〇五

五月二十六日

在浦潮菊池総領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

カッペリ軍ハ浦潮政權ヲ非社会党會議ニ譲渡

シ同會議ハ臨時治黑電政府ヲ樹立ノ件

第一二三号

(五月二十七日接受)

往電第一二〇号ニ関シ

五月二十六日午後発行「メルクローフ」一派ノ機関紙「スローウオ」ノ号外報ニ依レバ五月二十六日午前中当地政權ヲ奪取セル「カッペリ」軍ノ国民革命委員會ハ主權ヲ非社会党會議ニ譲渡シ同會議ハ茲ニ臨時治黑電政府ナルモノヲ樹立シ從來ノ行政諸機關ヲ縮小シ「ニコリスク」及浦潮市長ニ命ジ千九百二十年一月三十一日以前ノ市會議員ヲ召集シテ臨時市會ヲ開カシメ市會議員ノ改選ヲ行ハシメ且「エレメーエフ」(「コルチャック」時代ノ当市市長タリシ「エレメーエフ」カ又ハ同名異人カ猶不明)ニ新政ニ於ケル機關ノ組織並ニ沿海州建国會議ノ召集方ヲ委任シ尙陸軍中將

「レベージュエフ」(「コルチャック」時代ノ「レベージュエフ」將軍ナラム)ノ名ヲ以テ市ノ警備秩序維持方ニ関スル命令ヲ出シ居レリ因ニ市中旧民警ノ一隊ハ今尚反軍ニ降服セズ(二十六日夕)

七〇六 五月二十六日 在浦潮菊池総領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

極東非社会党会議会頭メルクローフ浦潮ノ秩

序恢復ノ為領事団ノ援助ヲ要請ノ件

第一二二一號

(五月二十六日接受)

極東非社会党会議ハ会頭「メルクローフ」ノ署名ヲ以テ五月二十六日午前十一時四十分内容左ノ通ノ文書ヲ本官宛送付シ来レリ

昨日以来武装部隊ノ乱暴ハ市内ニ増加シ「カッペリ」軍ノ將校兵卒等ノ家宅搜索又ハ捕縛セラルノ者引キモ切ラズ本日モ亦全市ニ亘リ捕縛行ハレ居ルモ「チエツトリン」及「レピョーチン」ヲ首脳トセル共產主權ニ服從シ居ル当市政府ハ前記不法暴行者ニ対シ何等取締ル所無ク為ニ人心動揺流言蜚語処々ニ行ハレ本日白昼又ハ夜間ニハ一大騷擾ノ起ル憂アリ之ヲ以テ市民首脳機關ハ現政府当局ヲ信任セズシテ

市内秩序ノ保護方ヲ本會議ニ願出デタリ依テ本會議ハ共產黨政府ニ対シ秩序紊亂整頓ノ為其ノ政權ノ讓渡方ヲ提言シ尚本會議ハ不取敢秩序恢復ノ為市中ニ在ル武装セザル「カッペリ」軍ニ対シ市護衛ノ任ニ当ラムコトヲ請ヘリ

本會議ハ沿海州鉄道沿線地方民ガ現共產政府ヲ認メザル事態ニ鑑ミ秩序恢復ノ為前記「カッペリ」団ニ対シ領事団ガ充分ノ援助ヲ与ヘラレムコトヲ請フ云々

七〇七 五月三十一日 在浦潮菊池政務部長ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

メルクローフ浦潮新政權ガ布告セル命令等一

括報告ノ件

第三二〇號

(六月一日接受)

今次政変運動者側ガ新聞ニ發表シタル事変以来ノ処置命令等一括大要左ノ通

(一)五月二十六日附国家的革命委員會ハ「レベージュエフ」中將ノ名ニ於テ命令第百一號ヲ以テ刑事犯人分子ガ市民ニ対シ強盜等暴行ヲ為スモノアルベキニ付各部隊長ハ彼等ノ逮捕隊ヲ設ケ且部下ヲ警戒シ強盜ハ現場ニ於テ銃殺シタル後報告スベシ云々

(二)同日国家革命委員會ハ極東大多數ノ民意ヲ表彰スルモノトシテ行政及軍事ノ全權ヲ非社会党大会ニ讓渡セリ
(三)非社会党大会幹部議長「メルクローフ」書記代理「エレメーエフ」ハ沿海州政庁各員ニ対シ同政庁稅政ノ結果多數州民ノ信任ヲ失シ地方ノ無政府狀態ヲ来スハ明ナルニ依リ各員ハ政權ヲ去リ吾人ヲシテ民意ニ依ル政權ヲ組織セシメヨ各種団体ノ申請ニ依リ已ムナク吾人ハ秩序維持ニ当ルコトトナレリ云々ノ通告文ヲ發送セリ

(四)臨時黒竜政府命令第一號トシテ「メルクローフ」「エレメーエフ」外三名ハ政府員ノ連名ニ於テ二十六日附ヲ以テ大要左ノ通告セリ

各省縮小ノ目的ヲ以テ執行機關ヲ左ノ通定ム

(一)内務部(行政民警、都市「ゲームストウオ」自治体、教育、郵便、衛生、社会救済ノ六課)

(二)財政經濟部(中央金庫、国立銀行、稅務、商工業、交通、國財ノ六課)

(三)司法部

(四)外務部

(五)會計検査院

外ニ陸軍部ハ政府ノ管掌トナシ極東軍(「カッペリ」軍)司令官「ウエルジロイスキ」中將ヲ政府ニ直屬セシメ各部長官トシテ重ニ旧官吏ヲ任命セリ但内務部長ハ未定ニシテ外務部長トシテ「クレンコフ」(「ホルワット」「ロザノフ」時代外交部員)ヲ任命セルモ本人ハ上海ニ在ル由浦潮「ニコリスク」兩市ニ於テハ「ロザノフ」時代市長ハ復旧シ各市會ハ新ニ選舉ヲ行ヒ州「ゼムストウオ」ニ関シテハ追テ命令スベク政府員「エレメーエフ」ニ対シテハ常設治黒竜政府組織ノ為ニ要スル沿海州憲法會議召集草案委員會ノ編成方ヲ命ジタリ同政府ハ同命令第二號ヲ以テ客年二月一日以降本月二十五日マデ(「ロザノフ」没落ヨリ今次政変迄)当州政權ニ干与シタル閣員及各部課長等ハ官金支出ノ計算ヲ提出セズ國財ヲ濫費シタル廉ヲ以テ裁判ニ附シ爾來判決又ハ不起訴ヲ見ル迄ハ官公吏タルヲ許サズ選舉權ヲ与ヘズ彼等ノ財産ハ何人ニモ転貸スルヲ許サザル旨ヲ布告セリ
尚新政府ハ二十七、八日ニ亘リ布告ヲ發シ市内ニ於テ探索、逮捕、殺害ノ浮説盛ナルニ対シ政府ハ刑事犯罪ニ対スル場合ノ外之等行為ヲ許サズ若シ濫ニ之等行為ヲナスモノアレバ嚴罰ニ処スル旨及労働者ノ「ストライキ」說ニ関シ

政府ハ労働者ノ利益ヲ顧慮セルニ依リ何等圧迫ヲナサズ
communismニ対シテハ合法ノ取締ヲ為スコト労働者ニ対
スル暴行者ハ嚴重ニ取締ルト同時ニ「ストライキ」ニシテ
国家ニ必要ナル工場ニ起リタル場合ハ参加者ヲ(脱)然ラ
ザル工場ノ場合ハ該工場ヲ閉鎖ス云々

七〇八 五月三十一日 在浦潮菊池政務部長ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

浦潮前政権ノ財政部長ベルラツキーガチタ政
府ト日本トノ関係等ニ付避難前ニ為シタル談
話報告ノ件

第三二二号 (六月一日接受)

当地財政部長「ベルラツキー」ハ当部及軍ノ援助ニ依リ五
月三十一日哈爾濱ニ避難スルニ先チ当部員來訪余ハ今回
「チタ」ニ赴キ大蔵大臣ノ位置ヲ得ル管ナルガ「チタ」ト
日本トハ經濟上ノ連結ヲ計ルノ必要アリ既ニ西沢商会ト物
品払下ノ契約ヲ結バントシ仮令其ノ条件他国商提出ノモノ
ニ比シ不利益ナリトモ日本トノ親善關係ヲ期シテ特ニ日本
商ニ許サントスルノ矢先當州政庁モ六月一日招集ノ筈ナル
現國民議會ヲ一時継続セシメ閣員一部ノ更迭ヲ行ヒ内外閣

係「チタ」トノ關係ヲ当地特殊狀態ト調和セント企図シ共
産党モ略同意セル折柄今回ノ事アリタルハ残念ノ次第ナル
モ「チタ」ハ之ガ為從來ノ対日態度ヲ變更スルコトナカル
ベシト思考ス余ハ「チタ」政府ニ対シ篤ト説明シ今回ノ事
件ニ対シテハ極メテ冷静ニ且大局ヨリ見テ輕率妄動スルコ
トナキ様努力セントス同時ニ吾人ハ日本ハ種々ノ風評ニ惑
ハサレザランコトヲ切望ス(脱)駐兵ヲ永続セシメンガ為
「チタ」側ガ浦潮事件ヲ利用シ兵ヲ東進セシメ日本軍ヲ脅
威セルヤノ風説ヲ伝フルモノモアレバナリ当地識者間ニモ
労働者ノ「バルチザン」ト化スルヲ抑止シツアルモノア
リ之ヲ要スルニ「チタ」ト日本トハ迷フコトナク予定ノ道
ニ進行センコトヲ望ムモノナリ云々
右ニ対シ部員ハ吾軍ガ今回ノ事件ニ対シ公明正大ノ態度ヲ
持シ居ルコト目下國民議會及地方自治團尊重ノ方針ニアル
コト對「チタ」關係ハ異常事件ノ發生セザル限リ従前ト変
ラザルベキ旨ヲ説明シ此ノ際「チタ」側ガ吾ガ方ヲ誤
解シテ何等輕率ニ出ヅル様ノコトナキ様勸説方勸告シタル
ニ「ベ」ハ充分首肯シ居タリ

七〇九 六月一日 在浦潮菊池政務部長ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

浦潮前政権ノ要人等ハルビン、ハバロフスク
ヘ避難ノ狀況ニ付報告ノ件

第三二四号 (六月一日接受)

「アントノフ」「ベルラツキー」「マスレンニコフ」「ポ
ポフ」「プリンチャンスキー」「カプラン」(元財政部次長)
「ゴンチャル」一行ハ我軍ニ於テ其安全ヲ保障シ五月三十
一日午後八時当地哈爾濱ニ向ヘリ又「チェットリン」ハ
六月一日正午發「ハバロフスク」ニ赴クコトナレリ當市
民警長「レーベゼフ」ハ既ニ「ハバロフスク」ニ安着シタ
ル旨軍ニ報告アリタリ「コスミンスキー」「メドウエゼフ」
今明日中ニ解放ノ筈ナルガ斯クテ従來政権ニ關係アリシ重
要ノ人物ハ逐次當市ヲ去リツツアリ軍ノ調査シタル所ニ依
レバ目下「メルクローフ」政権ハ各官庁ノ内部ヲ整理中ニ
シテ前政権ノ書類等ハ之ヲ破棄シ万事遣リ直シノ有様ナリ
労働者ノ中心タル海軍工場ハ新政権トノ折合ヲ(脱)差當
リ執務中ナルガ旧民警ノ大部ハ逃レテ三十「キロ」地帯外
ニ去リ居ルガ今後「バルチザン」トシテ來襲ノ虞生ジ得ベ

一六 反過激派関係雑件 七〇九 七一〇

シ新民警ハ武器四百三十余挺ヲ我軍ヨリ得タルモ市内各分
所ニ屯在シ街上ニハ未ダ出デ居ラズ軍ト「チタ」「ブ」市
「ハバロフスク」特務機關トノ電信ハ往復トモ杜絶シ居レ
リト云フ尚「タスキ」当地ニ來リ平佐大尉モ新聞記者ト
シテ來浦中ナリ五月三十一日軍ハ山本大佐ヲ「アントノ
フ」「チェットリン」ノ許ニ遣シ島田立会ノ上訣別ヲ兼ネ
重ネテ軍ノ態度ヲ声明ストテ「軍ハ依然内政不干渉ノ態度
ヲ持シ平和的手段ニ依ル極東統一ヲ希望シ内乱ヲ避ケラル
ベキヲ期待ス」トノ意味ヲ伝ヘシメタルガ彼等ハ是ヲ諒ト
シ「チタ」側モ同様之ヲ希望スト答ヘ特務機關ニ対シテハ
従前ノ通り便宜供与ヲ約セリ尚兩人ハ島田ニ対シ「チタ」
政権ト日本資本家トノ利權ニ關スル交渉ハ依然継続スベク
沿海州ノ運命ハ「チタ」乃至「モスコ」ノ左右スル所ト
思考スル旨ヲ附言セリ
松島ハ転電セリ

七一〇 六月二日 内田外務大臣ヨリ
在米國幣原大使宛(電報)

我軍憲ガ露國反動分子ヲ援助ストノ誤レル情
報ニ付國務長官ノ誤解ヲ解ク様回訓ノ件

七二七

別電 同日内田外務大臣發宛電報第二二四号

右誤レル情報ニ関スル件

第二二三号

貴電第二九九号ニ関シ

國務省ノ得タル報道ノ出所ハ別電第二二四号支那官憲ノ報告ニ關係アルモノト察セラルル処右ハ元ヨリ何等為ニスル憶説ニ外ナラズ支那官憲モ已ニ疑念ヲ一掃シタルコト同電末段ノ通ナリ帝國政府ハ從來声明セシ透露國ノ内争ニ付テハ敵正中立ノ態度ヲ執リ何レノ党派ヲモ援助セズ又我軍憲ノ東支鐵道占領計画ノ如キハ全然有リ得可カラザルコトナルニ付可然國務長官ニ挨拶アリタシ
別電ト共ニ在歐各大使ヘ転電アリタシ

(別電)

六月二日内田外務大臣発在米國幣原大使宛電報第二二四号

我軍憲ガ露國反動分子ヲ援助ストノ誤レル情報ニ関スル件

第二二四号 別電

在哈爾賓東支鐵道守備軍參謀長張將軍ハ同地我陸軍派遣員ニ対シ大要左ノ通り語リタル趣ナリ

最近当地宋鐵道督辦、道尹、奉天探偵局等各所ヨリ北京奉

ヘザルコトトシ其自由ニ委セタル次第ナリ右御含ミ迄

(在米國大使宛ニハ)

在米國各總領事及在歐各大使ヘ転電アリタシ

(在中國公使宛ニハ)

在中國各總領事(成都ヲ除ク)ヘ転電アリタシ

(在香港總領事宛ニハ)

マニラ、シドニーヘ転電アリタシ

註 亜港ニ付テハ後出一〇〇三文書ノ註參看

七一 六月三日

在浦潮菊池政務部長ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

浦潮ニ到着スルセミヨーノフニ対スル我軍ノ

措置決定ノ件

第三二九号

(六月四日接受)

「セミヨーノフ」ノ来浦說ハ当地一般内外人ノ神經ヲ痛ク刺戟シ「メルクローフ」政權ハ六月一日我特務機關長五味大佐ニ対シ「セミヨーノフ」ニ対シ圧迫ヲ加ヘラレタキ旨懇望スルト共ニ当地領事団ニ対シテモ亦懇請ノ次第アリ(領事館往電御参照)斯クテ当地方ニハ「メルクローフ」「ウエルジュビッキ」將軍ノ新政權ノ存在「ボルジュエリ

天ニ向ヒ日本軍ハ密ニ「セメノフ」「カッペリ」兩軍ヲ援助シ共產黨ニ対シ画策セシメ又馬賊ヲ操縦シテ東支線ヲ攪乱セントス今回尼市及浦潮ノ政變モ日本軍ノ援助ニヨリ成功ヲ見タルモノナル旨報告セリ張ハ初メ右ハ前記諸官カ部下探偵ノ忠勤振ヲ吹聴スル捏造報告ニ誤ラレタルモノト思惟シ居リシガ「セ」「カ」軍ノ成功ヲ見テ一時右報告ヲ信セントシタルモ日本軍ハ其武装ヲ解除シ公平ナル処置ニ出デ治安維持ニ任セシニ由リ始メテ日本軍ノ真意ヲ了解シ其旨各方面ニ通電セリ云々

七一 六月三日

内田外務大臣ヨリ
在米國大使在中國公使
在香港總領事 在亜港總領事 各宛(電報)
在ベトロバウロフस्क總領事

關東軍ハ今後セミヨーノフヲ援助セザルコト

ニ決定セル旨通報ノ件

合第一六〇号

今回ノ浦潮事變ニ関シ「セメノフ」ハ幕僚ト共ニ五月二十九日旅順出帆浦潮ニ向ヘリ關東軍ニテハ百方之ヲ阻止シ思ヒ止ラシメントセシモ聞入レザルニ依リ關係当局協議ノ結果今後絶対ニ彼ヲ援助セザルノミナラズ個人的保護ヲモ与

ヨーフ」一派ノ中央各派政權樹立ノ計画及「セミヨーノフ」

「オシボーフ」「ベツーホフ」一派ノ政權獲得運動トノ三

者並立シテ政情益々紛糾スベシト思考ス

「セミヨーノフ」ハ六月二日夕入港ノ筈ナルガ軍ハ同人ニ

対シ大要左記ノ趣旨ヲ通告シ且之ヲ新聞紙ニ公表スルコト

トセリ

(一)「イマン」以南ノ沿海州ニ於テハ日本軍ノ承認シタル若

クハ承認スベキ民警以外ノ武装団体ハ一切之ヲ認めズ

(二)貴下既往ノ地位權力ヲ日本軍ニ於テ現時一切之ヲ認めズ

単ニ一個人トシテ取扱フベシ

(三)日本軍ハ何等ノ援助ヲ貴下ニ与フル能ハズ

(四)右ノ外「セミヨーノフ」ノ沿海州入ハ時機ニアラザルコ

ト徒ラニ事態ヲ紛糾スルノミナルコト及沿海州ノ政變ガ日

本軍ノ使噓ニ依ルモノナルヤノ誤解ヲ強クセシムルノ虞ア

ルコト等ヲ附言セリ

松島ヘ転電セリ

七一 六月三日

在浦潮菊池政務部長ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

浦潮國民議會議員ノ新政權樹立計画ニ対シメ

ルクーロフ国民議会議解散ヲ命ジタル事情報告

ノ件

第三三二号

(六月四日接受)

休会中ナリシ国民議會議員中当地ニ在ルモノ三十一名(軍謀報ニ依ル)ハ五月二十七日臨時集會シ非共產各党派ヨリ成ル新政府ヲ樹立セムトシ其準備委員會ヲ作りタル旨国民議會議ノ名ヲ以テ我軍司令部ニ通告シ来タリ居タルガ右ハ「ボルジェリョーフ」「ウイノグラードフ」一派(往電第三〇四号参照)民主々義同盟會ヲ主トシテ国民議會議ノ名ヲ利用シテ一新政府ヲ樹立セムトノ計画ナリシモノノ如ク其結果「メルクーロフ」政權ヨリ国民議會議解散ノ命ニ接シタル(往電第三一七号)モノニシテ同議會議ハ六月一日正式ニ開會シ劈頭右解散命令ヲ審議スル筈ナリシ処定數議員會合セザリシ理由ヲ以テ追テ通知スル迄延期スルコトセリ当日議會ノ入口ニハ武装ナキ「カッペリ」兵數名居タルモ腕力ヲ用ヒタルノ模様ナカリキ尚從前「ズナーミヤー」ヲ印刷シ居タル要塞司令部印刷所ニ於テハ六月一日ヨリ「ルスキー、クライ」ナル新政權機關紙印刷セラルルコトナリ同紙ハ六月二日政權ノ(脱)何等違法ノ行為ニアラズト弁

府ノ名ヲ以テセル同政權ノ公文書ヲ提出シテ同夜直ニ領事團會議ノ開會ヲ懇請セリ

本官ハ外務次官ヨリ同人ガ本官ヲ來訪セルト同時刻ニ「メルクーロフ」ハ我司令部ニ出頭シテ「セミョーノフ」及「セ」軍ノ取締ニ關シ懇請ヲ申出デ居ル最中タルコト並ニ「メルクーロフ」政權ガ至急同夜ノ中ニ領事團會議ノ開催ヲ懇請セル趣旨ハ「セ」ノ上陸禁止ヨリハ寧ロ浦潮市中ニ約五百ノ「セ」軍ガ武器ヲ入手シ居ルノ情報アリ(本情報ノ確ナルヤ否ヤニ關シテハ答弁曖昧ナリ)夫レ等ガ武器ヲ執リテ事ヲ挙グルニ至ランコトヲ惧レ居ルニアル事情ヲ聴取シタル後同夜夜間ニ於ケル會議ノ開催ハ事實不可能且必要ヲ認メザル所以ヲ說示シ一応之ヲ拒斥シタルガ二日ニ至リ同日午後領事團會議ヲ開催スルコトトシ「メルクーロフ」一派ノ會議ニ出席陳情スルコトヲ許可セリ同會議ニハ「メルクーロフ」兄弟、「ウエルジェビツキー」將軍、外務次官等出席シタルガ「メルクーロフ」ハ先ヅ同人ト「セミョーノフ」トノ從來ノ關係ヲ詳述シテ「セ」ガ先年「ザバイカル」地方ニ於テ拳軍ノ際ハ莫大ナル金錢ヲ獲得シタルニ不拘其分配宜シキヲ得ズ且其ノ行動ニ對シ地方民ノ反

明シ本件ニ關スル浦潮日報ノ論說ヲ批難シ居レリ

註 菊池政務部長ノ五月二十八日發第三〇四号及同五月三十一日

發第三一七号ヲ省略セリ

七一四 六月三日 在浦潮菊池總領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

セミョーノフノ浦潮上陸差止方ニ關スルメルクーロフ政權ノ懇請ニ基キ開催セル領事團會議ノ模様報告ノ件

別電一 同日菊池總領事發内田外務大臣宛電報第一三四

号

セミョーノフノ浦潮上陸阻止方ニ關シメルクー

ロフ政權ヨリ領事團ニ要請ノ件

二 同日菊池總領事發内田外務大臣宛電報第一三五号

メルクーロフ政權ノ要請ニ對スル領事團ノ決定及回答

第一三三三号

(六月四日接受)

六月一日夜ニ至リ「メルクーロフ」政權ノ外務次官本官ヲ來訪シ大要別電第一号ノ如キ内閣員署名ノ上臨時治黑竜政

感ヲ買ヒ遂ニ解散ノ已ム無キニ至レルコト「セ」ガ其部下ニシテ「グロデコフ」ニ在ル「サエリエフ」將軍其他日本等ニ在ル配下ノ發セル針小棒大又ハ虚偽ノ報告ヲ信ジ本年三月頃或ハ故「コルチャク」ニ代リ極東最高執政官トシテ起ツノ意アルコト明白トナリタルニ依リ「メ」ガ旅順ニ出張シテ部下ノ言ヲ輕信シテ拳兵ノ非ナルコトヲ力說シ「セ」ノ意思ヲ翻サシメタルコト然ルニ一旦斯克約束セル「セ」ハ再び年少三十三足ラザル「サエリエフ」等ノ虚伝ヲ信ジ愈出馬ノ意ヲ洩シタルコト仍テ「メ」ガ「セ」ニ誘說シ「セ」ニシテ此際「ザバイカル」方面ニ拳兵シテ過軍ニ當ラバ地方人民ノ氣受モ好カルベク「メ」ハ当地ノ商工業ヲ振興シテ其軍資金調達ノ任ニ當ルヲ辞セザルコト然ルニ「セ」ニ反感アル土地ニテノ主權者トシテノ拳事ハ全然不可能ナルコトヲ述べ「セ」モ一旦同意シタルコト最近「サエリエフ」ハ更ニ旅順ニ招致セラレ其結果沿海拳兵ノ議ヲ決セルヲ以テ「メ」ハ又「エレメーエフ」ト共ニ旅順ニ赴キ其非ナルヲ勸告シ當時モ「セ」ハ「メ」ノ說ニ從ヒタルモ今回「サエリエフ」ハ「セ」ニ電話シ「サ」ガ浦潮ニテ事ヲ挙グベケレバ「セ」ハ「ハ」市ニ同志ヲ集メテ政府樹

of this resolution, by publication or otherwise, as it deems fit.

七一五 六月六日 内田外務大臣ヨリ
在米国幣原大使
在奉天吉原総領事代理宛(電報)

浦潮領事団ガセミヨーノフノ浦潮上陸阻止ノ
決議ヲ為セル旨通報ノ件

合第一六二号

六月二日浦潮領事団ハ左ノ趣旨ノ決議ヲ為セリ
沿海州新臨時政府其他ヨリ接受セシ同州ノ政情及「セメノ
フ」ノ来着ガ重大ナル結果ヲ生ジ浦潮市民並ニ居留外国人
ノ生命財産ニ危害ヲ及ボスノ虞アルニ鑑ミ浦潮領事団ハ將
来露国民ガ沿海州行政ニ関スル意見ヲ發表スルノ機会ヲ得
ルニ至ル迄「セメノフ」ノ沿海州上陸ノ意志放棄並ニ既ニ
浦潮ニ到着シ若クハ到着シツアル「セ」軍全部ノ武装解
除ヲ要求スベシ云々

(米ヘハ) 在欧各大使ヘ転電アリ度シ
(奉天ヘハ) 北京、哈爾濱、上海ヘ転電アリタシ

セミヨーノフニ対スル日本軍司令部ノ通告

合第一六四号 別電

貴下ノ沿海州進入ハ未ダ其ノ時期ニ達セザルノミナラズ徒
ラニ時局ノ進展ヲ紛糾セシメ却テ貴下ノ素志ニ反スル結果
ヲ生ズベキノミナラズ今回ノ政変ガ恰モ日本軍ノ応援使囑
ニ因ルモノナリトノ誤解ヲ生ゼシメ為メニ日本軍ノ立場ヲ
困難ナラシムルニ至ルベキヲ以テ軍ハ貴下ニ対シテ右考量
ノ下ニ行動ヲ律セラレムコトヲ要請スルト共ニ左記三件ヲ
通告ス

一、「イマン」以内ノ沿海州ニ於テハ日本軍ノ許可シタル
並許可スベキ民警ノ外一切ノ武装団隊ノ存在ヲ許サズ
二、貴下既往ニ於ケル地位権力ハ日本軍ニ於テ現時一切之
ヲ認メズ

三、日本軍ハ何等ノ援助ヲ貴下ニ与フルコト能ハズ

七一七 六月七日 在浦潮菊池政務部長ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

沿海州自治庁長ガ部員ニ対シ為シタル浦潮チ
タノ政情ニ関スル内話報告ノ件

第三三七号

(六月八日接受)

一六 反過激派関係雑件 七一七 七一八

七一六 六月六日 内田外務大臣ヨリ
在米国幣原大使
在奉天吉原総領事代理宛(電報)

六月四日浦潮入港ノセミヨーノフニ対シ沿海
州進入ヲ不可トスル旨日本軍司令部ヨリ通告
ノ件

別電 同日内田外務大臣発在米国幣原大使及在奉天吉
原総領事代理宛電報合第一六四号
右通告

合第一六三号

浦潮派遣軍参謀長ヨリ陸軍省ヘノ電報ニ依レバ「セメノ
フ」ハ六月四日浦潮ニ入港シタルニ依リ日本軍司令部ハ別
電第一六四号ノ趣旨ヲ通告シタル処「セ」ハ之ヲ諒トシ二
三日船中ニ在リテ将来ノ行動ヲ決スベキ旨回答セルガ目下
ノ処市内一般特ニ動揺ヲ来セル情況ナキ由ナリ

(米ヘハ) 右別電ト共ニ在欧各大使ヘ転電アリタシ
(奉天ヘハ) 右別電ト共ニ北京、哈爾濱、上海ヘ転電ア
リタシ

(別電)

六月六日内田外務大臣発在米国幣原大使及在奉天吉原総領事代
理宛電報合第一六四号

沿海州自治庁長「メドウエジョフ」浦潮市長「コスミン
スキー」ハ旧政權ニ関係アリシモノ数名ト共ニ六月六日夕我
軍憲ノ保護ノ下ニ哈爾濱ニ向ヘリ出発ニ先立チ「メドウエ
ジョフ」ハ我官憲ノ彼等ニ対スル取扱ニ対シ深厚ナル謝意
ヲ表シタル上部員ニ内話シテ曰ク今回ノ政変ニ対スル日本
官憲ノ態度ハ自分等善ク之ヲ諒解ス事茲ニ至リタルハ正ニ
「アントーノフ」政權ノ過失ナリ余ハ約二ヶ月前ヨリ今日
ノ事アルヲ思ヒ「カッペリ」軍側ノ意向ヲ探リタルニ充分
妥協ノ途アルヲ知レリ然ルニ「アントーノフ」一派ハ余リ
ニ自説ヲ固執シタルタメ今日ノ結果ヲ見タリ但シ民意ニ基
カザル極右党ナル現「メルクローフ」政權モ到底永続スベ
キモノニアラズ結局各派ト妥協シ行クベキモノト思考ス
「チタ」モ亦今回ノ政変ニ依リ幾分其態度ヲ右ニスベク自
分ハ「チタ」滞在中得タル感想ニ依レバ「チタ」ノ極東統
一ヲ希望スルノ念頗ル強大ナルモノアリ尚浦潮附近ノ如キ
一小地帯ガ独立シテ存在シ得ベシトハ思考セズ云々

七一八 六月八日 浦潮派遣軍参謀長ヨリ
陸軍次官宛(電報)

浦潮政界ガセミヨーノフ等ノ政權爭奪ニ依リ

混沌タル状勢ナル旨報告ノ件

浦参謀第四〇九号

(六月九日外務省写接受)

浦潮政状

「セメノフ」ヲシテ政治ニ干与セシメサル代リニ彼ヲシテ
総軍指揮官ヲシムルコト並ニ軍資金ヲ支給スヘキ条件ト
ニヨリ一時の成立ヲ見ントセシ「セ」「カ」両軍ノ妥協ハ
昨七日ノ会見後却テ相離反セントスルノ形勢トナレリ其真
相ハ「セ」ノ依然政權の野心ヲ有スルト軍資金調達問題ニ
関シ「メ」ハ「セ」ニ対シ国民議會ニヨル政權確定後ニ非
ザレハ軍資金ヲ支給シ難シト云ヒ出シタル為ナルカ如シ而
シテ「セ」ハ曰ク予ニシテ一度反共產ノ旗ヲ挙ケンカ極東
三州直ニ応スヘク從テ軍資金ノ調達困難ナラストス況ヤ米
國ハ五千万円ノ貸与ヲ申込メリ其「メ」等カ予ノ出現ヲ以
テ其内外ニ対スル不評判ニヨリ軍資金調達ヲ困難ナラシム
云々ノ説ハ根拠ヲ單ニ浦潮ノ一角ニ置クモノニシテ一個ノ
對「セ」宣傳ナリト語レリ又暗ニ日本軍司令官ノ諒解アル
カ如ク仄カシ目下兩者相下ラサルノ状態ナリ兩者間ニ在リ
テ特種關係ヲ有スル國民議會ヲ背景トセル極東民主同盟
(「カデー」ヨリ右「エス、エル」迄)ニシテ右議會ニ對シ

「メ」ハ曩ニ解散ヲ命セシモ目下之ヲ懷柔セントシ其民主
同盟首領「ボルジェリョーフ」等カ其黨員ヲ「メ」ノ内閣
ニ入ルヲ許サヤトノ問ニ對シ暗ニ同意ヲ仄カセルノミナラ
ス彼ハ國民議會ノ議決ニ依リテハ内閣全部ノ譲渡マテ甘受
スル所ナリト答ヘ又「セ」側ノ「タスキン」ハ國民議會ノ
引入ニ暗中飛躍ヲ試ミツツアルカ如シ
之ヲ要スルニ浦潮ノ政界ハ「セ」「メ」「ボ」側ノ政權爭奪
ニヨリ今尚混沌タリ

本八日再ヒ「セ」「メ」ノ会見アル筈

追テ「メ」側人士ノ多クハ当地出身者ニシテ当地ノ利害
問題ヲ主目的トスルニ反シ「セ」側人士ノ多クハ避難者ニ
シテ同地ヲ以テ単ニ今後自家勢力拡張ノ一時根拠地トシテ
利用スルニ過キス從ッテ当地限リノ利害問題ニ冷淡ナルモ
亦兩者ノ一致ヲ遲延ナラシムル一原因ナリ參考迄

七一九 六月九日 在英國林大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

日本軍援助ノ下ニ反過激派政府樹立セラレタ
リトノ新聞報道ニ関シ對露干涉反對國民委員
會ヨリ会見申込ノ件

第七一九号

(六月十一日接受)

今次浦潮政變ニ関シ六日ノ「デーリー、ヘラルド」紙ニ(一)
日本軍援助ノ下ニ「カッペリ」ノ白軍ハ浦潮ヲ占領シ反過
激派政府ヲ樹立セリ(二)勞農政府ハ日本政府ガ「ウランゲ
ル」軍ヲ浦潮ニ輸送スルノ手段ヲ講ゼリトノ確報ニ接シ居
レリ(三)而シテ其計画ハ「ウ」將軍ガ「セ」「カ」殘軍ト合
シ「コルチャック」ノ旧路ヲ辿リ西比利亞ノ新征服ヲ企テ
ントスルニ在リ云々ノ記事(最近婦英ノ「クラシン」ヲ通
ジ莫斯科ヨリ供給セラレタル記事ノ如シ)掲載セラルルヤ
当地 National "Hand-off Russia" Committee ハ七日附

ニテ本使ニ書面ヲ寄セ若シ右記事ニシテ事實ナルニ於テハ
本會ハ直チニ機宜ノ行動ヲ取ルベク多數下院議員モ亦同意
見ナリ然レドモ公正ノ立場ヲ取リ日本側ノ説明ヲ聞カント
欲ス本會ハ英國ニ於ケル有力ナル諸勞働組合ノ首領ヲ包含
スルガ Commander Kenworthy 外自由党勞働議員其他ヨ
リ成ル代表員ヲ選出シ本使ニ会見ヲ求ムルモノナリトテ其
人名ヲ列举シ最近会見ノ時日指定ヲ求メ来タリ且会見ノ次
第ハ之ヲ公表スル積ナリト申越セリ
元来当國勞働階級ガ對露干涉反對トシテ一大勢力ヲ有スル

ハ御承知ノ通りナルノミナラズ日英同盟改訂問題ヲ眼前ニ
控ヘ居ル折柄(七日ノ「ヘラルド」紙ハ露國太平洋沿岸ノ
「ミスターフ、メーカー」ト題シ同盟ヲ継続スルハ不賢明
ナリトノ記事ヲ掲ゲタリ)先方ノ疑念ヲ一掃シ置クコト必
要ト認メタルニ付貴電第三四七号等ノ趣旨ニ基キ最近浦潮
政變ニ対スル日本ノ態度トシテ六、七兩日「デーリー、ヘ
ラルド」紙ニ掲載セラレタル報道ハ全然事實無根ナル旨一
応書面ニテ回答シ置キタリ就テハ今後モ本件政局ノ推移及
帝國ノ態度殊ニ出先軍憲ノ行動等ハ隨時詳細御電報相成度
シ

七一〇 六月十日 在土国内田公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

在君府露國避難民ヲセミョーノフ軍ニ参加セ
シメントスルウランゲル將軍ノ申出ニ付請訓
ノ件

第二八号

(六月十一日接受)

当地ニ在ル西比利亜出身露国避難民中四千人ヲ「セミヨーノフ」ニ於テ費用ヲ負担シ義勇艦隊ノ船舶ニ依リ極東ニ輸送セント申出デタル趣ヲ以テ其ノ日本軍ノ占領地域内ニ上陸方ニ付日本政府ノ許可ヲ得タキ旨「ウランゲル」ヨリ申越セリ右ハ浦潮政変ノ際ニモアリ又四千人ハ全部窮民ト見ルノ外無キニモ鑑ミ輸送好マシカラズト存ズルモ「ウランゲル」ニ回答ヲ要スルニ付御意見折返シ御回電相成リ度シ

七二一 六月十一日 在英国林大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

英国労働者ノ態度ニ鑑ミ浦潮政変ニ対スル日

本政府ノ態度声明ノ必要ニ付稟申ノ件

第七二二号(至急)

(六月十三日接受)

往電第七一九号及第七二四号ニ関シ

労働政府ハ公然日本ノ行動ヲ非議シ当国労働モ亦我態度ニ疑惑ヲ懷キ居ル折柄此際帝国政府ノ公正ナル態度ヲ内外ニ宣明スルハ最モ緊急ニ之アリ当国労働ガ外政上常ニ帝国主義ヤ政策ニ反抗シ来リ客年夏露国波蘭問題ニ関シ手強ク英國ノ対露政策ニ反抗シ「カウンスル、オブ、アクション」

ヲ組織シ全労働ノ結束ヲ以テ政府ニ肉薄シタルノ事実ニ徴スルモ我態度ノ如何ニ依リテハ当国労働カ主義上ノミナラズ帝国政府ニ対スル政略上日英同盟改訂ニモ反対スルコトナキヲ保セズ(客年往電第三八号参照)就テハ此際至急浦潮政変ニ対スル帝国政府ノ態度ヲ確の精細ニ声明セラルルト共ニ右声明書ヲ電報相成様致シタシ尚往電第七一九号委員會ハ十五日ニ面会ヲ求メ来リタルニ依リ最近ノ機会ニ於テ之ヲ接見シ十分誤解ヲ釈ク積ナルニ付テハ右声明書若クハ前電「ヘラルド」記事反駁参考資料成ルベク同日迄ニ間ニ合フ様電報相成リタシ

註 客年在英大使宛外務大臣宛電報第三八号(一月三十一日外務省著)ハ英国労働派首領株ガ一月二十九日英国ノ対露政策ニ付長文ノ宣言書(英國ハ露国ト平和ヲ結ブベシト云フモノ)ヲ發表セル旨ヲ報告セルモノナリ

七二二 六月十一日 在英国林大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

反革命派ノ浦潮政変ニ関シチチェリン外務人民委員ヨリ英仏伊政府ニ送リタル同文通牒ニ付報告ノ件

第七二四号(至急)

(六月十二日接受)

最近極東ノ政変ニ関シ「チチェリン」ガ英、仏、伊政府ニ送リタル同文通牒(英國政府ニハ六月四日「クラッシン」之ヲ手交ス)六月十日新聞ニ發表セラル右通牒冒頭ニ於テ労働政府ガ国内ニ於ケル反革命団並ニ外国政府ノ妨害干涉ニ抗シ鋭意内政ノ改革ニ当ラントスルニ際シ不幸反革命団ト外国政府ノ共同干涉ハ其希望ノ実現ヲ妨ゲラレタル次第ヲ述ベ浦潮ニ於ケル僅少ナル白衛軍ハ日本軍保護ノ下ニ同市ノ政權ヲ奪取シ「ニコリスク」「ウスリースク」其他日本軍占領地域ニ於テモ同種ノ騷擾ヲ惹起シ反革命運動ガ再び抬頭セルコトヲ述ベ労働政府ハ日本政府トノ間ニ平和ヲ確保スル手段ニ関シ有ラユル努力ヲ払ヒ之ガ為極東ニ別個ノ共和国ヲ建設シ日本ト平和ノ協定ヲ遂ゲ日本ハ此地方ヨリ軍隊ヲ撤去ス可キ筈ナリシニ不拘意外ニモ日本政府ハ労働政府ノ仇敵タル極端反革命派ニ支援ヲ与ヘ露国ノ自由独立ヲ侵害シ自国資本家ニ対シ勸察加ノ企業權ヲ附与シ漁区ノ收入ヲ横奪セリ加之「セメノフ」「カッペル」ノ殘党ガ支那ノ辺境ニ蟠居シ東支鐵道ヲ占領シツツアルガ如キ或ハ又「ウンゲルン」ノ徒ガ蒙古ニ在リテ極東共和国政府ノ瓦解

ヲ画策シツツアルガ如キ何レモ皆日本軍隊ノ支援ニ基クモノナリ
更ニ又日本帝国主義ノ「エゼント」ハ深ク中央亜細亞ニ入込ミ陰謀ノ宣伝ニ努メツツアリ現ニ土耳其斯坦ノ反革命団ハ右計画ノ為密使ヲ日本ニ送ラントセリト述ベ日本政府ハ労働政治ニ對抗スル干涉ヲ煽動ス此種ノ党争ニ対スル責任ハ独リ日本政府ニノミ歸スベキニアラズ現ニ仏国政府ハ今回ノ政変ヲ煽動シ日本ノ西比利亜征服計画ニ参与シツツアル証拠アリ聯合國ハ何レモ德義上ノ責任アリ英國政府亦英露ノ条約ニ違背スル行動アルモノノ如シト述ベ最後ニ労働露国ハ直接其ノ政府ニ対スル極東共和国ニ対スルトヲ問ハズ苟クモ露国ヲ害セントスル此種ノ行動ニ対シ抗議ヲ提出スルト共ニ此点ニ関スル今後ノ措置ヲ留保スル旨ヲ挙ゲ其ノ通牒ヲ結ベリ
右ニ対シ英國政府ハ六月九日附ヲ以テ右労働露国ノ通牒ハ之ヲ受領スルニ由ナシ的確ナル証拠ヲ挙示スルコトナクシテ事實無根ノ責任ヲ他国ニ嫁セントスルガ如キハ國際慣例ニ反スルノミナラズ兩國ノ親善ニ裨益スル所ナキニ付英國政府ハ本件ニ関シ此上ノ往復ヲ重ヌルコトヲ拒否スル外ナ

シト答ヘタリ

七二三 六月十三日

在浦潮菊池政務部長ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

メルクローフ政権樹立後ノ浦潮方面ノ政情ニ

付報告ノ件

第三四三三

(六月十四日接受)

当地方ニ於ケル政変後ノ政状ハ未ダ混沌不定ノ域ヲ脱セズ
「メルクローフ」新政府ハ爾来略機関ヲ備ヘ表面一応体裁
ヲ整ヘタルガ如キモ「セミヨノフ」側トノ交渉ニ没頭シ
未ダ建設の事業ハ措置キ最モ急ヲ要スル措置スラ充分ニ之
ヲ講ジ得ズ其基礎ノ確立ガ歩ヲ進メタルモノト称シ難ク僅
ニ其擁立者タル非社会党会議幹部、「カッペリ」軍、市会、
家主組合、僧侶、旧左党保守の右党一味ノモノガ信任ノ意
ヲ表シ居ル軍人ノ間ノミニシテ有力ナル社会団体ノ後援ヲ
有セズ目下最強政敵タル「セミヨノフ」トノ妥協未ダ纏ラ
ズ往々「セ」側ヨリ威嚇ヲ受ケアリ又「クロリ」「ボルジェ
リヨーフ」一味ヲ中心トスル極東民主同盟団乃至農民及勞
働者側トノ連繫未ダ成ラザルヲ以テ「メ」ハ今ヤ一ニ不日
開催ノ極東非社会党大会(本月十日開催ノ筈ナリシモ未ダ

公開ノ運ニ至ラズ)乃至七月一日召集ノ予定ナル新国民議
会ニ勝ヲ占メテ地盤タラシメント期スルモノノ如キモ左党
側ヲ容ルベキ之等會議ノ向背ハ未知數ニ属セリ然ルニ一方
「セミヨノフ」ハ今次政変主謀者タル主張ノ下ニ自ラ大
ナル希望ト期待ヲ懷キテ来浦シタルモ我軍憲ヲ始メトシ
「メ」一派乃至当地領事団ノ排「セ」的態度ニ遭ヒ当地市
会モ亦体好キ排「セ」の意向ヲ示シ殊ニ当地言論界ニ至リ
テハ「セ」側御用紙ヲ除ク外何レモ「セミヨノフ」排斥
ヲ痛論セザルハナク労働組合機関ハ素ヨリ「カデット」^(註1)及
穩健中立派機関サヘ「日本ノ後援ニ依ル「セ」ノ挙事ニ対
シテハ内乱防止領土保全上全露人ハ反対セザル可カラズ」
ト切論スルニ至リ「カッペリ」軍ノ態度亦截然反「セ」的
ナルヲ以テ形勢愈々「セ」ニ取リ不利ニシテ「セ」ハ未ダ
上陸スルニ至ラズ「メルクローフ」一派ト屢々為シタル会
商ニ於テ「セ」ハ最初ノ触込タル最高政權ヲ捨テ当地方政
權ハ「メルクローフ」側ニ譲ルモ総軍司令官トシテノ權限
及對過激派戰ニ要スル軍資金調達方ヲ「メル」側ニ要求シ
自家廣告的ニ「セ」ガ拳兵ノ曉ニハ全極東ハ拳ツテ応募ス
ベシトカ米國又五千万金ヲ貸与スベシトカ日本側ニモ諒解

ヲ有ス云々トカト仄メカシテ或ハ架空のニ或ハ威圧のニ
「メル」側ニ迫リタルモ「メルクローフ」ハ現政府ノ財政
現状「カッペリ」軍トノ關係及「セ」トノ妥協ガ自己ノ不
祥ヲ招クベキコト且再ビ「セ」ガ政權ヲ奪取スルニ至ルベ
キコト等ヲ顧念シタルヲ以テ「セ」ニ對シ軍資金ニ關シテ
ハ将来ノ国民議會ニ計ラザルベカラズトテ應諾セズ兩者各
々自論ヲ固守シテ妥協点ニ達セズ「セ」ノ立場益々困難ナ
ル有様ナルヲ以テ終ニ一応「グロデコウオ」^(註2)ニ入リテ再
挙ヲ計ラムトスル企図ヲ有スル旨伝ヘラルルニ至レリ然ル
ニ「メル」「セ」兩派ノ政争ニ對シ現下鼎立ノ地位ニ在ル
前頭「ボルジェリヨーフ」「クロリ」一味ヲ中心トスル極
東民主同盟団一派ハ曩ニ「メ」政府ノ為其根拠地タルベキ
国民議會ヲ解散セラレタルモ農民団及「カデット」ヨリ左
ノ社会党穩和派ト連繫シテ前述ノ通り「セミヨノフ」ニ
對シテハ絶對反對シ「カッペリ」軍ニ款ヲ通ジ「メ」政權
ニ對シテハ批評傍觀的態度ヲ持シ居ルモ實力ヲ有セザルヲ
以テ其頼ミトシ来タル旧国民議會ガ到底復活ノ見込ナキ
ヲ察シタル昨今ハ從前ノ態度ヲ變ヘテ今回ノ非社会党大会
乃至新国民議會ニ自ラ出デテ飽ク迄言論宣伝ニ依リ反「セ」

乃至「メ」政府ノ左偏民主化運動ヲ計ラムトスルモノノ如
シ若シ夫レ政争上一大勢力タルベキ当地労働社会及之ニ共
鳴性ヲ有シ来タル地方農民派ハ從來ノ指導者タル共產党
ノ失脚ト共ニ表面沈靜ヲ守リ本月八日僅ニ小新聞ヲ発行シ
テ依然排「セ」排「メ」乃至排日の宣言ニ著セル外別ニ
積極的行動ヲ為サズ専ラチタ側ノ態度ニ囑望シツツ目下当
地ノ形勢觀望ノ態度ニアルモノノ如シ若シ彼等ニシテ非社
会党大会乃至国民議會ニ自ラ参加スルガ如キ機運ニ際セ
ムカ当地政權ガ「メル」「ボル」兩者ノ内彼等ヲ好ク操縦
シ得ルモノノ掌中ニ歸スベキハ疑ナカルベシ (終)

註一「カデット」ハ Konstitutions-demokratische (立

憲民主黨)ノ略称

2「グロデコウオ」ハ沿海州ノ町 Grodekovo

七二四 六月十四日

内田外務大臣ヨリ
在土国内田公使宛(電報)

ウランゲル將軍ノ露國避難民極東輸送企圖ニ

賛同シ難キ旨回訓ノ件

第一四号(至急)

貴電第二八号ニ關シ

今回ノ浦潮政変ニシテ極東全部ヲ白化スル見込アラバ兎モ角ナレド「カッペリ」「セメノフ」一派ハ四囲ノ事情ニ迫ラレ單ニ自己ノ勢力維持ノ為メ日本軍勢力範圍内ニ於テ事ヲ挙ゲ目下ノ処夫レ以上ニ勢力ヲ擴張シ得ル見込少ク随テ右ハ極東政情ノ安定ヲ妨ゲ予テ各政權ノ妥協統一ヲ希望スル我方針ニモ反スルヲ以テ我方ハ絶対ニ彼等ヲ援助セザル積リナルガ此際貴電避難民輸送ハ益々事態ヲ紛糾セシメ我ニ害アリテ益ナキニ依リ将来時局平定ノ後ハ兎ニ角目下ノ処成ル可ク彼等ノ極東ニ來タラザル様御措置アリタシ

貴電第二八号本電ト共ニ欧米各大使ニ転電アリ度シ

七二五 六月十六日

在浦潮菊池政務部長ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

沿海州ニ於ケル日本軍ノ内政干渉ニ関シ極東
共和国外相ユーリンヨリ日本外相宛抗議書ヲ
島田受領ノ件

第三四九号

(六月十七日接受)

在哈爾濱島田ヨリ六月二日附「チタ」外相「ユーリン」発
日本外相宛左記書信受領ノ旨軍電ニテ電報アリタリ
一、反動派ニ対スル日本軍憲ノ態度ニ批難スベキ点アルヲ

シ好結果ヲ齎スベキコトヲ確信シ左記ノ事項ヲ絶対的ニ要求セントス

(一)日本国政府及日本軍ハ自称「メルクーロフ」政府ニ対スル援助ヲ絶対ニ為サザルコトヲ声明セラルルコト
(二)日本軍ヨリ速ニ民警及国民保安隊ニ対シ武器ヲ還付セラ

ルルコト
(三)共和派代表者ノ行フ犯人逮捕秩序恢復ノ目的ヲ以テスル行為ニ対シ日本軍憲ハ干渉セザルコト

(四)共和国ノ地方合法官憲沿海州「コミッサル」トシテ浦潮ニ赴任スル外務次官「コゼウニコフ」ガ秩序恢復外國人保護ヲ確実ニスル目的ヲ以テ行フ(不明)日本軍憲ニ於テ内政干渉ヲ為サレザルニ於テハ日本軍人ノ毛髮一本ニテモ折ル様ノコト無カルベク外國軍隊ノ無キ地方ニ於テ外人ノ享有スルト同一ノ歓待ヲ受ケラルベシ若シソレ前頭各項ニ対スル回答ヲ避ケラレンカ若クハ前記ノ要求拒絕セラレンカ然ルニ於テハ極東國民及共和国政府ハ沿海州ニ於ケル内乱ノ繼續秩序ノ紊乱ニ対スル責任ヲ回避シ之ヲ全然日本軍憲ノ武力の内政干渉ノ罪ニ帰スベシ全責任ハ文明国(脱)共和国トノ間ニ生ジタル不自然ナル状態ニ付テ即時討議セラ

一六 反過激派關係雜件 七二六 七二七

指摘シ現ニ「チタ」米國代表者中日本軍ノ撤退セザル所ニ秩序ナシト云ヘルモノアリ日本政府ハ沿海州ニ於ケル斯ノ如キ不當行為ヲ中止セシムルノ權威無キヤト(脱)極東共和国政府ハ日本政府並ニ國民ヨリ左記問題ニ対スル明確ナル回答ヲ求メントストテ大要次ノ如ク記載セリ

(一)日本政府並ニ國民ハ日本軍憲ガ極東露民ノ意思ヲ顧慮セズ露國ノ事業ニ干渉ヲ加フルヲ以テ正當ト認ムルヤ

(二)日本政府ハ「セメノフ」「ウンゲルン」軍等ノ叛徒並ニ馬賊ニ何故援助ヲ与ヘラルルヤ

(三)日本政府ハ確實ナル通商條約ヲ結び以テ共和国領域内ニ於ケル日本商人ノ利益ヲ保障スルノ必要ヲ認メザルヤ

(四)日本政府ハ共和国ニ現ニ駐屯スル其ノ軍隊ガ三年間ノ經驗ニ依リ親善關係又ハ日本在留民ノ特權ヲ確保スルノ目的ヲ達成シ得ズ却ッテ日本ニ対スル疑惑ノ源泉タルニ顧ミ此際撤兵スルノ意ナキヤ

吾人ハ日本政府ガ右ニ対シ速ナル確答ヲ与ヘラルベキヲ信ジ且又日本軍ハ露國民ニ対シ公平ニシテ真面目ナル親善關係ヲ結バンガ為実行ノ域ニ入ルベキヲ確信ス

斯ノ如クニシテ問題解決センカ共和国政府ハ日本國民ニ対

ルルコト及共和国政府ト協力シテ賢明ナル措置ニ出デラルルコトヲ確信スルモノナリ云々

七二六 六月十七日

内田外務大臣ヨリ
在米國幣原大使宛(電報)

セミヨーノフノ浦潮行ニ対スル日本政府ノ態
度ニ関シ事情説明方訓令ノ件

第二四四号

(註)

貴電第三一二号前段ニ関シ我陸軍当局ヨリ米國武官ニ対シ「セメノフ」カ多量ノ武器彈藥ヲ携帯シ旅順ヲ出發シタル旨通報シタル事実ナク又米國武官ヨリ米國政府ヘ斯クノ如キ電報ヲ發シタルコトモ無キ趣ハ三月十五日參謀次長發井上武官宛電報ノ通りナリ尚「セメノフ」ノ浦潮行ニ対スル我方ノ態度ハ往電第一六〇号及第一六三号ノ通ナルニ依リ右適當ノ機會ニ於テ國務長官ニ可然説明シ置カレ度シ在歐各大使ヘ転電アリ度シ

註 後出一〇三〇文書

七二七 六月十七日

内田外務大臣ヨリ
在浦潮菊池政務部長
在中國吉田臨時代理公使
在ハルビン山内總領事

七四三

極東政変ニ関スル勞農政府ノ英仏伊三国政府宛同文通牒ニ関スル件

附屬書 右同文通牒ノ要領及英國政府ノ回答要領

歐一機密合送第一三四号

最近極東政変ニ関シ勞農政府外相「チチェリン」ガ英仏伊三国政府ニ送リタル同文通牒（英國政府ニ對シテハ六月四日「クラッシン」之ヲ手交ス）並之ニ對スル英國政府ノ回答要領別紙ノ通ナル旨今般在英大使ヨリ電報有之候ニ付御参考迄右及通報候也

（附屬書）

極東政変ニ関スル勞農政府ノ英仏伊三国政府宛同文通牒ノ要領及英國政府ノ回答要領

「チチェリン」ノ通牒ハ先勞農政府カ銳意内政改革ニ當ラントスルニ際シ不幸反革命団ト外國政府トノ共同干涉ニ依リ妨害セラレタル次第ヲ述ヘ浦潮ニ於テハ僅少ノ白衛軍ハ日本軍保護ノ下ニ同市政權ヲ奪取シ「ニコリスク」「ウスリスク」其他日本軍占領地域ニ於テモ同種ノ騷擾ヲ惹起シ以テ勞農政府カ極東ニ別個ノ共和國ヲ設クル等一意日本トノ間ノ平和ヲ確保セントスル苦心ヲ水泡ニ帰セシメタリ日

キニ付英國政府ハ本件ニ関シ此上往復ヲ重ヌルコトヲ拒否スル外ナシト答ヘタリ

七二八 六月十九日 在米國幣原大使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

北滿洲及西比利亞方面ニ於ケル日本軍憲ノ行動ニ関シ米國政府接受ノ諸報道ヲ國務長官ヨリ示アリタル件

別電 同日幣原大使宛内田外務大臣宛電報第三三六号
右諸報道ニ関スル非公式覺書

第三三五号

（六月二十一日接受）

六月十八日國務長官ヲ往訪シタル処同官ハ前回本使ト会见ノ際北滿洲及西比利亞方面ニ於ケル日本軍事官憲ノ行動ニ関シ國務省ノ接セル諸般報道ノ要領ヲ内示スヘキコトヲ約シ置キタルガ其ノ後地方旅行中ナリシ為遷延今日ニ至リタリト断リタル上別電第三三六号非公式覺書ヲ讀ミ上ゲ素ヨリ其ノ内ニハ事実ノ正確ナラザルモノモ鮮カラザルベク又惡意ニ出デタル虚構ノ流説モアルベシト雖モ単ニ本使ノ参考迄トシテ國務省ニ達シタル報道ヲ淡白ニ内示スル所以ナル旨ヲ述ベタリ本使ハ元來「セミヨーノフ」ノ西比利亞

本ハ未ダ同地方ヨリ撤兵セザルノミナラズ意外ニモ勞農ノ仇敵タル極端反革命団ヲ支援シ露國ノ自由独立ヲ侵害シ觀察加ニ於テハ自國資本案ニ企業權ヲ附与シ漁区ノ收入ヲ横奪セリ又「セメノフ」「カッペリ」ノ殘党ノ東支鐵道ヲ占領セル、「ウンゲルン」ノ徒ノ蒙古ニ於ケル画策等何レモ日本軍ノ支援ニ基カザルハナシ更ニ日本帝國主義ノ「エゼント」ハ深ク中央亞細亞ニ入り込ミ陰謀ノ宣伝ニ努メツツアリ此種ノ行動ニ對スル責任ハ唯リ日本政府ノミニ歸スヘキニ非ズ仏國政府ハ今回ノ政変ヲ煽動シ日本ノ西比利亞征服計画ニ参与シツツアル証拠アリ聯合國ハ何レモ德義上ノ責任アリ英國政府亦英露條約ニ違背スル行動アルモノノ如シト述ヘ勞農露國ハ直接其ノ政府ニ對スルト極東共和國ニ對スルトヲ問ハズ苟モ露國ヲ害セントスル此種ノ行動ニ對シ強硬ニ抗議ヲ提出スルト共ニ此点ニ関スル今後ノ措置ヲ留保スル旨ヲ記セリ

右ニ對シ英國政府ハ六月九日附ヲ以テ回答ヲ發シ勞農露國ノ通牒ハ之ヲ受領スルニ由ナシ的確ナル証拠ヲ示スルコトナクシテ無根ノ事実ノ責任ヲ他國ニ嫁セントスルカ如キハ國際慣例ニ反スルノミナラズ兩國ノ親善ニ裨益スル所ナ

ニ於ケル活動及列國ノ之ニ對スル態度ニ就キ種々ノ變遷アリタル頗末ハ國務長官ニ於テ知悉セラルルヤト問ヒタルニ同官ハ未ダ之ヲ熟知セズトテ本使ノ説明ヲ需メタリ依テ本使ハ露國革命勃發後幾何モナクシテ「セミヨーノフ」ガ西比利亞ニ反過激派軍ヲ起シタルヤ英仏兩國政府ハ率先シテ資金及兵器彈藥ヲ之ニ供給シ日本モ亦英仏ト歩調ヲ一ニセムカ為同様ノ援助ヲ与ヘタル歴史ヲ詳述シ其ノ後英國政府ハ Lockhart ヲ非公式代表者トシ莫斯科ニ於テ過激派政府ト一種ノ妥協ヲ試ミタルト共ニ他ノ一面ニ「セミヨーノフ」ヲ援助スルハ莫斯科ニ於ケル交渉ニ累ヲ及ボスベキヲ恐レテ突然右援助ヲ断チタル為從來聯合諸國ノ同情ニ信頼シテ既ニ多數ノ將卒ヲ糾合セル「セミヨーノフ」ハ茲ニ進退ニ窮スルニ至リタルガ当時日本ハ「レニン」一派ト妥協ヲ試ミルノ無益ナルヲ認メ又俄ニ「セミヨーノフ」ヲ窮境ニ陥ルルハ情誼上忍ビザル所ナリシヲ以テ遂ニ当分單獨ニ「セミヨーノフ」ニ對スル援助ヲ繼續スルコトトナリタル次第ナリト説キ尤モ爾來時局ノ推移ニ鑑ミ無限ニ右援助ヲ繼續スルハ西比利亞ノ統一ニ害アルベキヲ慮リ「セミヨーノフ」ノ為相当一身上ノ善後策ヲモ講シタル上昨年断然一

切ノ関係ヲ断チタル事実ヲ明言シ今回「セミヨール」ノ浦潮ニ赴キタル顛末ニ就テハ屢次ノ貴電及井上少将宛参謀本部来電ニ依リテ説明ヲ加ヘ「セミヨール」ハ曩ニ関東州ニ滞在シタルモ俘虜又ハ刑事被告人ニモアラズ日本官憲ノ諭告ニ反シテ浦潮ニ赴カムトスル場合ニ日本官憲ハ其ノ自由ヲ拘束スルノ權利ナシ之ヲ拘束セザルノ故ヲ以テ本人カ日本領土ヲ露国内争ノ隠謀根拠地ニ供スルコトヲ容認シタリト解スルハ甚ダ理由ナシト信スル旨ヲ述ヘタリ

以上本使ノ談話ハ國務長官ノ感興ヲ惹キタルモノノ如ク逐一熱心ニ聴取リタル上日本ノ態度ハ能ク諒解セリ今回自分カ「セミヨール」問題ニ言及シタルハ量ラズモ事実ノ真相ヲ明カニスルニ於テ頗ル有益ナリシヲ喜ブトテ謝意ヲ表シ世間ニハ日本ニ対スル反感ヲ挑発セムガタメ各般ノ虚構ヲ流布スルモノアルハ自分モ大体想ヒ付カザリシニアラズト言ヒ要スルニ日米間ニ一切ノ誤解ヲ除去スルハ自分ノ宿望ニシテ國務省ノ接手セル報道ニ基キ日本軍事實憲ノ行動ヲ指摘シタルモ何等他意ナキ旨ヲ繰返シタリ

本使ハ猶過般会談ノ節國務長官ハ東京米國大使館武官ノ陸軍省ヨリ得タル報道トシテ「セミヨール」カ二百名ノ將

校ヲ率ヒ且多量ノ兵器彈藥ヲ携ヘテ旅順ヲ出發シタルコトヲ述ヘラレタル処其ノ後本使ノ確メタル所ニ拠レバ陸軍省ハ右大使館附武官ノ問ニ答ヘ單ニ「セミヨール」出發ノ事実ヲ告ゲタルニ過ギズ二百名ノ將校又ハ多量ノ兵器彈藥ト云フカ如キハ嘗テ言及セルコトナク又實際ニ於テ「セミヨール」ト同行シタルハ三十二名ノ露國人ニ止マリ兵器彈藥ハ之ヲ携ヘタル形跡ナキ旨ヲ告ゲ如何ニシテ前記ノ如キ誤報伝ハリタル次第ナリヤト問ヒタルニ國務長官ハ直ニ記録課員ヲ呼出シタルモ既ニ一同退庁後ニシテ関係書類見当ラザリシガ國務長官ハ何レニスルモ事実ノ真相ハ今ヤ本使ノ談話ニテ判然セリ若シ米國大使館附武官電報中前記將校及兵器彈藥ニ関スル何等記述アリタリトスルモ其ノ誤解ナルコトハ明瞭ナリト答ヘタリ

(別電)

六月十九日幣原大使發内田外務大臣宛電報第三三六号

北滿洲及西比利亞方面ニ於ケル日本軍憲ノ行動ニ付米國政府接受ノ諸報道ニ関スル非公式覚書

第三三六号

(六月二十一日接受)

It was stated in the press in Japan during January, 1921, that Semenov, since his arrival in Port Arthur on December 6, 1920, had come to a definite understanding with General Chang Tso-lin, the Chinese Governor-General of Manchuria. As a result of this understanding it was expected, according to this press report, that General Semenov would resume his activities in the near future. There was an account of a dinner given by General Semenov to a large company, at a Japanese restaurant in Port Arthur, at which General Ogata, the Commander of the Port Arthur Fort, responded on behalf of the guests to a speech made by Semenov. In course of his speech the Japanese officer said that, although Semenov's activities during the past several years had not been crowned with success, he had no doubt that the influence and popularity of the Cossack Ataman would result in bringing the Trans-Baikal district under his sway. He is credited with saying

further that the present was simply a period of preparations for future activities and that he hoped General Semenov would carefully lay his plans in order to win the final victory. In the event of Semenov's resuming activities, he (General Ogata) believed that Japan would take some positive steps. During April the press in Japan referred to the extraordinary war estimate of 100,000,000 yen, passed by the Japanese Diet, and called attention to the inclusion therein of expenditures necessary in connection with the stationing of Japanese troops in Sakhalin, the inauguration of civil administration in that Province, the basis of permanent barracks at Nikolaievsk, Decastri and Alexandrovsk, the making of roads connecting these places, and the construction of telegraphic lines.

Aside from the press reports of which the foregoing are cited merely as examples, information reached this Government from sources not of a

Other reports coming from private and possibly unreliable sources referred to plans alleged to have been made by the Japanese Military Authorities for the concerted action of Japanese forces with General

Ungern-Sternberg and Chang Tso-lin in Mongolia and Manchuria, and the forces of General Semenov, the late General Kappel, and other anti-bolshevik leaders in Siberia. Reports of this character were received with special frequency and from diversity of sources at the time of the conference of Japanese military and civil authorities at Tokio in May, at which it was understood that Japan's future policy in Siberia would be considered. Many of these reports sought, possibly maliciously, to attribute to the Japanese military leader a purpose of creating and maintaining unrest in Eastern Siberia as an argument for still longer delaying the withdrawal of the Japanese military forces.

在浦潮菊池総領事ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

浦潮新政府外務部長ガ領事団ニ提出セル同政
府及セミヨ一ノフ間交渉經過顛末書報告ノ件

第一四六号乃至第一五〇号
(六月二十四日接受)

(第一四六号)

浦潮新政府外務部長「カレスニコフ」ハ六月二十二日正午迄ニ行ハレタル同政府ト「セミヨーノフ」トノ交渉談判經過ナリトテ内容大略左ノ如キ顛末書ヲ同日午後当地領事団ニ提出セリ

「セ」ハ自己ノ軍隊ノ海拉爾移送ニ関シ張作霖トノ間ニ妥協成立セリトテ政府ニ対シ「セ」及彼ノ軍隊ノ海拉爾移送費四十万留支出方ヲ提議セリ

政府ハ右ノ提議ニ関シ六月十六日ノ會議ニ於テ之ヲ審議左
ノ如ク決定セリ

金額ニ就テハ審議セズ要求額四十万留ヲ二期ニ分チ即チ一部ハ当地ニ於テ殘額ハ大連又ハ旅順港ニ於テ支払フコト「セ」ガ自己軍隊ノ海拉爾移動ニ関スル要求及其軍隊ニ對スル要求費ヲ政府ヨリ支出スルコトハ容認スルコト但シ其条件トシテハ「セ」ガ臨時政府ノ領域内ニ止マルコトナク至急浦潮ヲ発シ南支（南滿ノコトカ）鐵道經由海拉爾ニ赴クヲ要ス

本決議事項ハ事務長官「ルードニエフ」ニ命ジ「セ」ニ通
知セシメタルガ六月十七日ノ會議ニ於ケル「ル」ノ報告ニ
依レバ「セ」ハ左ノ如ク言明セリト

一六 反過激派關係雜件 七二九

所要費用ハ二期即チ一部ハ六月十七日ノ正午迄ニ殘部ハ一
晝夜後ニ政府ヨリ交附スルヲ要ス「セ」ノ海拉爾行ニ對シ
外國ノ港ヲ經由セムトスルハ「セ」ヲ侮辱スルモノニシテ
「セ」ハ「ボグラニイチナヤ」ヲ通過シ軍備ニ要スル期間
ハ「グロデコーウオ」ニ止マルベキ旨ヲ頑強ニ主張スルコ
ト海拉爾以西ニ於テ專念過激派ト戰フヲ以テ其目的トスル
ヲ以テ臨時政府ノ事業ニハ干渉セザルコト
前記各項ヲ遂行スベキ協定ニハ同意スベキモ同時ニ臨時政
府ハ尚左ノ條件ヲ附スルヲ要ス

(イ)「セ」ノ後方部隊ニ対スル政府ノ保障

(口)臨時政府ハ共產主義者及過激派ト如何ナル妥協ヲモ為サ

ザルベキコト

本月十七日正午迄ニ回答ヲ与ヘザルニ於テハ「セ」ハ自由
行動ニ出デ政府員ヲ其職務ヲ背任スル国民ノ敵トシテ宣言
スベキコト（続ク）

(第一四七号)

依リテ政府ハ六月十六日ノ臨時會議ニ於テ右ノ報告ヲ發表シ「セ」ノ新提議ニ對シテハ回答セザルコトニ決セリ而シテ該會議後政府首班「メ」ハ日本軍司令部ヨリ「セ」トノ

問題ニ関シ至急解決希望ノ旨ノ通知ニ接シタルガ十七日午後三時政府ハ臨時會議ニ於テ日本軍司令部ノ希望ニ関スル「メ」ノ報告ヲ聴取シタル後「セ」ガ現時沿海州ノ領域内ニ上陸スルハ州内ノ紛擾ヲ惹起シ「セ」ハ住民ノ不信ヲ買ヒ敵意ヲ醸スノ故障アルベキモノナリト決定シ紛擾解決ノ為ニハ「セ」ヲ其幕僚ト共ニ「ボシエット」ニ上陸滞在セシメ上陸後ハ沿海州ノ他ノ場所ニ赴カザルコト総司令官ノ資格ヲ以テ沿海州ノ事業ニ干渉セザルコト如何ナル武裝軍隊ヲモ編制セザルコト並ニ臨時政府ノ同意ナシニハ出動セザルコト等ノ保障書ヲ政府ニ提出セシムルノ一法アルアルノミ而シテ本協定ノ締結ニ際シテハ日本軍司令部員モ之ニ列席シ「セ」ニシテ其履行義務ニ違反スル場合ニハ日本軍司令部ハ「セ」ノ不法行為ニ対スル政府ノ処置ヲ妨ゲザルノミナラズ「セ」ニ対シ其義務遂行方ヲ懲罰スル為有ラユル手段ヲ取ルノ保障ヲナスナラン一方政府ハ「セ」ノ幕僚及護衛兵ニ要スル俸給等必要ノ費用ハ政府直屬ノ司令官幕僚並ニ部下等ニ給スルト同様ノ率ニ於テ政府之ヲ支給ス可ク尙政府ハ「セ」トノ事件ニ付建國議會ノ協賛ヲ待タズ政府員ニテ臨機ニ如上ノ処置ニ出デタルハ緊急ヲ要スル事情

ル妥協案ニ対シ左ノ条件ヲ「セ」ニ提出スルニ決セリ

一、政府ハ地方ノ靜安ニ歸スルマデ当分如何ナル形式ヲ以テスルモ「セ」ガ「グロデコーウオ」駅又ハ政府ニ從屬セル兩駅中ノ他ノ地点ニ滞在スルコトニ同意スルコトヲ得ズ但シ本年六月十七日ノ政府ノ特別會議ニ於テ定メタル条件ノ下ニ先ニ提示シタル「ボシエット」ニ滞在スルコトハ此ノ限ニアラズ

二、政府ハ前声明ノ通「セ」ヨリ当分如何ナル形式ヲ以テスルモ沿海州ノ国事又ハ軍事ニ携ハルコトヲ許サズ故ニ所謂「セメヨーノフ」軍隊ナルモノノ食料及輸送並軍人ノ給料等ニ関スル条件ニ付キテハ之ヲ軍隊或ハ或ル特別ノモノトシテ取扱フヲ得ズ蓋シ政府ハ自己ノ所屬軍隊ノ何レモ食料上給与ノ區別ヲ附セズ又輸送ニ関シテハ必要アル場合特ニ政府ニ於テ之ヲナスコトアルベシ政府ハ「セ」ノ「ボシエット」滞在中俸給ニ必要ナル費用ノ支出ハ之ヲ引受クベク尙又「セ」ノ債務金ニ付テハ其ノ支払期限並金額ニ関スル正確ナル通知ヲ得ルヲ必要トス

三、政府ハ第二項ヲ以テ要求条件以外ニ屬スル軍需品即チ彈藥軍用被服等ニ関スル措置命令ニ類スルモノト(脱)何

ニ基クモノニシテ政府ハ有ラユル手段ヲ以テ至急事件ノ和解ヲ計ルノ必要アリ蓋シ政府ノ希望スル平和時期ノ到達ハ一ニ懸リテ「セ」ガ自己ノ義務履行ト政府ニ対スル忠實觀念ノ如何ニ存ス(続ク)

(第一四八号)

其後六月二十日日本軍司令部大佐及二名ノ通訳同席ノ上汽船「パトロクリ」号上ニ於テ「セ」ト「メ」ノ兩人会见署名ノ上左ノ四個ノ予備条項ヲ作レリ

一、日本軍司令部ノ大佐ヲ首脳トスル代表者ハ爭論調停ノ目的ヨリスル双方ノ願ニ依リ本日ノ協議ニ列席スルコト

二、日本軍司令部ハ秩序保安ノ為衷心ヨリ双方ノ妥協ヲ希望スルコト

三、日本軍司令部ハ問題解決ノ為一方ガ武力ヲ用フルニ至ル場合ニハ之ヲ秩序ヲ紊ス不当ノ行為ト見做シ保安維持ノ為断然タル手段ニ出ヅベキコト

四、日本軍司令部ハ人道上ノ見地ヨリ論争ヲ防グ為軍隊ニ給与セラルベキ食料ハ政府隷屬ノ軍隊ニ給セラルルモノト同様タルベキコト

臨時政府ハ六月二十一日特別會議ニ於テ「セ」ノ提出ニ係

トナレバ一切ノ命令權ハ沿黑竜政府ニ屬スルモノナレバナリ(続ク)

(第一四九号)

四、「セ」ハ本条件ニ同意ノ上ハ其ノ長官ノ有スル權能ガ政府ノ命令ニ違反スル行動ヲ制止スルモノナル以上ハ当然德義上ノ觀念ヲ以テ対応シ同時ニ必要条件トシテ「クレルジエ」將軍ヲ免職シ「サエリエフ」將軍ヲ司令官ノ要職ヨリ去ラシメザルベカラズ

五、「セ」ハ政府トノ協商ニ依リ過激派討伐ヲ開始前自己所有ノ護衛兵ヲ除キ苟クモ臨時政府ノ領域内ニ在ル軍隊ニ対スル政府命令措置ニ対シ干渉スルヲ得ズ但シ右ノ護衛兵ト雖政府ノ定メタル諸規定ニ対シテハ一切之ニ違反スルヲ得ズ

六、政府ハ「セ」ニ対シ「セ」ガ自己ノ費用ヲ以テスルトキハ何時ニテモ自己ノ同志軍隊ト共ニ後員加爾領域内ニ出ヅルノ權ヲ提供ス但シ道ヲ臨時政府ノ領域内ニ取ルトキハ政府ノ同意ヲ得ルヲ要ス

「セ」ハ右ニ対シ更ニ政府ニ左ノ新条件ヲ提出セリ

一、「セ」ハ当分国家ノ行政及新政府所管領域内ニ於ケル

一六 反過激派関係雑件 七三〇

政權ニ携ハラズ政府所属ノ領域中「セ」ノ臨時滞在在地ハ「ボシエット」ノミナルベシ政府ハ「セ」ガ前記領域以外ノ地ニ滞在スル場合ニハ之ヲ妨碍セズ

二、本協約署名当時「セ」ノ部下軍隊ノ滞留スルモノハ其ノ土地ノ如何ヲ論ゼズ其儘トシ其ノ要スル一切ノ給養隨時且完全ニ臨時政府ヨリ受領シ「セ」ハ自己ノ軍隊ニ対シ出発命令又ハ臨時政府トノ関係ニ付テハ規律維持ノ命令ヲ発ス

三、本協約署名ニ際シ臨時政府ハ「セ」ニ左ノ金品ヲ交付スルコト

一、負債償却費トシテ三十万円但シ浦潮滞在中自己軍隊ニ対スル給養費トシテ使用セル八万円ヲ含ム

二、「セ」ノ護衛兵三百名ニ対スル食料向フ一ヶ月分並ニ之ニ対スル相当数ノ被服

三、「セ」參謀部員二十名ニ対スル向フ一ヶ月分ノ食料
四、汽船共同丸ノ借料一昼夜千円ノ割ニテ三十昼夜分ノ前払金トシテ三万円但シ本金額ハ政府ニ於テ直接該船舶主ニ仕払フコトヲ得(続ク)

(第一五〇号)

七五二

五、臨時「セ」ノ護衛兵ニシテ「セ」ニ随行スベキ三百名ノ兵員ヲ收容スルニ必要ナル汽船「マンジエウル」号
六、「マンジエウル」号 使用石炭二百屯

四、本協定ハ協定者中ノ一方ノ希望ニ依リ十日ヲ経タル後改訂スルコトアルベシ

政府ハ本日正午前記「セ」ノ提出条件ヲ審査シタル後容認スベカラザルモノト認メ現ニ六月十七日及同二十一日ノ會議ニ於テ政府ノ定メタル条件ヲ固執中ナリ云々(終)

七三〇 六月二十四日

在ハルビン山内総領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

ウンゲルン軍討伐ノ為内蒙古ニ軍隊ヲ派遣セ
ル事情ニ付チエリンヨリ中国政府ニ通牒ノ
件

第一二四号

(六月二十五日接受)

六月二十二日「チタ」発「ダリタ」電報ニ依レバ「ウンゲルン」討伐ノ為露軍入蒙ニ関シ莫斯科政府外務部長「チエリン」ハ六月十五日支那外交総長ニ対シ通牒ヲ発シ内蒙古ニ策動スル「ウンゲルン」ハ露支共同ノ敵ニシテ同軍ガ露国及之ト同盟ノ極東共和国ニ攻撃ヲ加ヘタルニヨリ戦事

忠告シタルモ「セ」ハ肯ゼズ密カニ同地ヲ脱出シ二十七日「ニコリスク」ニ入レリ目下吾軍ハ其行動ヲ監視中ナリ(米ヘハ)右在欧各大公使ヘ転電シ在北米各総領事ヘ通報アリタシ

七三二 七月一日

内田外務大臣ヨリ
在米國幣原大使宛(電報)

米國國務長官内示ノ日本軍憲ノ行動ニ関スル

諸報道ノ誤ニ付同長官ニ説明方訓令ノ件

第二六五号

貴電第三三六号國務長官ノ非公式覚書ニ関シ貴官ハ適當ノ機會ニ於テ同長官ニ対シ左ノ趣旨ヲ説明シ置カレタシ

一、「セメノフ」ノ催シタル晚餐会席上緒方將軍ノ演説ナルモノニ付テハ陸軍省ヨリ直ニ同將軍ニ就キ取調べタル処右ノ如キ意味ノ演説ヲ為シタルコトナキ趣ナリ日本当局ノ「セメノフ」ニ対スル態度ハ往電合第一六〇号合第一六三号合第一六四号別電ニ徴スルモ明カナリ

二、帝國政府ハ将来露國ニ正当政府樹立セラレ尼港事件ノ満足ナル解決ヲ見ルニ至ル迄「サカレン」州内二三地方ヲ占領シ駐兵スル以上仮兵舎ヲ建ツル等諸般ノ設備ヲ為スハ

表明スルモノナリ
在支公使ニ転電セリ

七三一 六月二十九日

内田外務大臣ヨリ
在米國幣原大使
在中国吉田代理公使「宛(電報)

メルクーロフ及セミヨーノフ間ノ妥協成立セ
ズ我軍ハ「セ」ノ行動監視中ナル旨通報ノ件

合第一八〇号

浦潮ニ於テハ其後「メルクーロフ」「セメノフ」間ノ妥協成立セズ兩者ノ関係緊張スルニ至レルヲ以テ我軍憲ハ「セ」ニ対シ此際一切武力使用ヲ許サザル旨戒告スルト共ニ民意ニ依ル新政府確立迄一時「ボシエット」附近ニ退去スル様

一六 反過激派関係雑件 七三一 七三二

七五三

軍ノ維持上必要已ム可カラザル所ナリ又民政ヲ施行ストハ用語妥当ナラザルモ事實ハ占領ニ件ヒ必要欠クベカラザル軍政ヲ行フニ外ナラズ

三、共產主義反対聯盟ナルモノ有無ハ不明ナルモ日本軍司令官立花將軍ハ之ヲ是認シタルコト無ク又其創設ニ努力セシ事實ナシ

四、日本軍ト「ウンゲルン」張作霖「セメノフ」及「カッペリ」軍ト協同動作ノ計画ナルモノモ事實全然無根ニシテ右ハ日本軍ヲ故意ニ中傷セントスルモノト思ハル

五、日本政府ハ一日モ速カニ西比利ノ政情安定センコトヲ希望ス日本軍憲ガ駐兵ノ口実ヲ作ランガ為ニ東部西比利ノ不安状態ヲ継続セシメントスルガ如キハ全然有リ得ベカラズ

在欧各大使へ転電アリ度シ

七三三 七月十五日 在米國幣原大使ヨリ
内田外務大臣宛

シベリア問題ニ関スル米國政府ノ抗議通牒ニ
対スル回答覚書手交ノ件

附屬書 右覚書写

that communication, he is now informed to the following effect:—

The War Office at Tokyo telegraphically inquired of General Ogata at Port Arthur the nature of the speech which he is alleged to have delivered on the occasion of the dinner given by General Semenov in that City towards the beginning of this year. General Ogata in reply has submitted a report, by which it is made clear that his speech was entirely misrepresented in the newspapers, and that he made no remarks in encouragement of political or military plans of General Semenov.

On the contrary, the Japanese military authorities at Port Arthur have consistently discouraged all activity of General Semenov in that direction. When it was known in the latter part of January last, that he was contemplating departure from Port Arthur to join with the group of the late General Kappel at Vladivostock, the Japanese authorities gave him

機密第一四号

(八月二十三日接受)

大正十年七月十五日

在米

特命全權大使男爵 幣原 喜重郎(印)

外務大臣伯爵 内田康哉殿

西比利亜問題ニ関スル対米覚書送附ノ件

本件ニ関シ七月十四日國務長官ニ覚書ヲ手交シタル旨往電第四〇〇号ヲ以テ申進置候処右覚書写茲ニ及御送附候条御査閱相成度此段申進候也

本信写送附先 在欧各大使

(附屬書)

七月十四日附幣原大使ヨリ國務省宛覚書写

AIDE-MÉMOIRE

The Japanese Ambassador did not fail to call the attention of his Government to the reports mentioned in the informal Memorandum of the State Department dated June 18, 1921, relative to certain proceedings of the Japanese military authorities in Eastern Siberia. In answer to the points raised in

a warning in disapproval of such a scheme. Upon the warning being unheeded, they sent him a notice in unequivocal terms that he could no longer count on Japan even for the protection of his personal safety. It was not possible for them, within the limits of law, to proceed any further, by way of placing him under arrest or detention in Port Arthur.

In disregard of all restraining counsel, he finally made his way to Vladivostock. There he was met with a protest from the Japanese military command against his landing at that port, which would have no doubt added to the complications of the situation.

These are the facts. The insinuation in the press reports which are quoted in the Memorandum of the State Department is entirely misdirected, and does injustice to the correct attitude of the Japanese military authorities towards General Semenov.

It is true that the extraordinary military expendi-

tures of Japan for the current fiscal year include those connected with the stationing of her troops in the Russian Province of Sakhalin and the administration necessary for the effective occupation of certain points in that Province, as well as the building of barracks and the improvement of the means of communication in the occupied districts. The position of Japan in the matter of such occupation is defined at some length in the Memorandum of the Japanese Embassy dated July 8, 1921. The occupation naturally carries with it the exercise by the occupying forces of certain administrative functions within the districts in question. It is further evident that the rigor of climate, the sparseness of population and the inefficiency of the means of communication in the occupied territory make it absolutely necessary for Japanese troops to be provided with barracks and with better telegraph service and roads, if the occupation, however temporary, is to be maintained.

argument for delaying the withdrawal of her forces.
July 14, 1921.

七三四 七月二十日 在浦潮松島政務部長ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

浦潮政權ヨリ各種利權ノ許与並日本ヨリ財政
援助及武器供給ヲ得度旨非公式申出ノ件

第三九五号 (七月二十日接受)

浦潮政權ハ特務機関ニ対シ非公式ニ漁業権商工業権動産取得權ニ関シ日露両國人ノ平等待遇露領樺太ノ期限附讓渡、通商条約ヲ締結シテ最惠國ノ待遇ヲ許与スル事、東支鉄道回復ノ曉四分ノ一ノ權利ヲ讓与スル事、黒竜江松花江ノ航行權許与、日本ノ承諾無クシテハ五年間他國ト条約ヲ締結セザル事ヲ提議シ日本ヨリ財政上ノ援助及武器ノ供給ヲ得タキ旨申出タリ

哈爾濱へ転電セリ

七三五 八月十七日 在本邦露国大使ヨリ
内田外務大臣宛

沿黒竜州政權ニ対スル我態度ニ関シ同政權ヨ
リ日本政府ノ再考ヲ要請ノ件

一六 反過激派關係雜件 七三四 七三五

Expenditures for such purposes cannot be avoided. Nothing is known in Tokio about the League to Combat Communism, mentioned in the Memorandum under review. The War Office is, however, satisfied that General Tachibana has never allowed himself to take part in, or to give approval to the formation of the League.

Reference is further made in the Memorandum to the plans which the Japanese military authorities are reported to have in mind for a concerted action with Generals Ungern-Sternberg and Chang-Tso-Lin and certain anti-Bolshevik leaders in Siberia. The reports are as unfounded as they are mischievous. Japan is materially interested in an early stabilization of the situation in Eastern Siberia. Continued disorder in the territory close to her border only tends to aggravate her own difficulties. Nothing can be more repellent to her aims and policy than to create and maintain unrest in that region as an

日本ノ具体的利害關係及ビ其国家的伝統ノ見地ヨリシテ新政權ハ日本派遣軍司令部及ビ日本政府ノ公然的ノ或ハ少クトモ暗黙裡ニ於ケル同情ヲ受クベキモノト思惟セラレタリ然ルニ事實ハコノ余ガ期待ヲ裏切りタリキ吾ガ財政並ニ經濟的狀態ガ如何ニ重大ニシテ如何ニ破滅ニ近キツツアリトモ政府ガ遭逢シツツアル窮境並ニソノ計画実現ニ対スル障礙中吾人ノ現在最大苦難トスルモノハ決シテコレニ非ルナリ

然シテ当地ニ在ル日本政府ノ代表者並ニ日本派遣軍司令部ノ吾政府ニ対スル奇異ニシテ腑ニ落チザル態度コソ實ニ吾人ニ対スル鬼門タルナレ

吾ガ沿黒竜州政府ハ同情ノ期待ヲ裏切ラレタルノミナラズマタ到ル処ニ於テ惡意ニ遭逢シ最モ合法的ニシテ日本ニ対シテ最モ忠実ナル計画ノ実現ニ対スル障礙ヲ受ケツツアルナリ

転覆シタル共產政權及ビ沿海州ニ於ケル新シキ国民的政權ニ対スル日本ノ態度ヲ比較考量スルニ日本ハ其特殊ノ時局觀ヨリシテ前政權及ビ「チタ」ニ於ケル「トベリソン」ノ政權ヲ沿黒竜州政權ヨリ遙カニ望マシキモノト思惟シ居リ

ト結論スルノ外ナシ

何が故ナルカ如何ナル思量ヨリセシカハ不可解ナリ然レドモ次ノ事実ニ鑑ムレバ他ノ結論ヲナスコト能ハザルヲ知ルベシ

一、一九二〇年四月四日、五日ノ事變ノ後コノ事變ニヨリテ姿ヲ隠セル「エス・エル」及ビ共產黨員ガ再び表面ニ現レテ政權ヲ剝奪セルトキ日本軍司令部及ビ日本ノ代表者等ハ最初ノ一箇月ノ間ニ彼等ヲ事実上ノ政權ト認メテコレト友誼的交渉ヲ開始シ其「バルチザン、コムニスト」等ヲ政府ノ民兵ナリトシテコレニ浦塩斯德ニ於テ螺旋銃千六百挺機關銃八挺全州ニ於テ螺旋銃五千挺ヲ供給セリサレドコノ場合何人モコノ政權並ニ該州ニ於ケル共產黨員ヲ威嚇スルモノナク住民並ニ政府ニ対スル暴行モ之アラザリシナリ

沿黒竜州政府ニ対スル態度ハコレト全然其趣ヲ異ニス

二箇月半ノ間四散シ武装シタル共產黨員ガ協定ニヨリテ活動スル「バルチザン」及ビ馬賊ノ援助ニヨリテ全州ニ於テ住民ヲ脅カシ官吏等ヲ捕ヘ線路ヲ破壊シ居ルニモ拘ラズ吾人ハ賊徒ト戦フガ為ニ十分ノ武器ヲ得ルコト能ハザルナリ

セルニ於テヲヤ若シ日本代表者ノカカル奇異ナル交渉ナカリセバチタ政權ハ既ニ早ク「アムール」及ビ「ザバイカル」州住民ノ一般の不滿ノ結果自然ニ潰滅スベカリシナリ日本ガ何ノ為ニコノ奇異ニシテ一般ニ嫌惡サルル政權ヲ支持シ居ルカハ了解ニ苦シム所ナリコハ單ニ武力ニヨリテノミ武装ナキ住民ヲ压迫シ居リ非国民的ニシテ其性質及ビ其主要ナル代表者ノ組成ヨリ考フレバ決シテ露西亞のナラザルモノニ非ズヤ

三、沿海州前政權没落前數ヶ月ノ間ニ同政權ニ不滿ヲ抱ケル住民ノ大部分ノ支持ニヨリテ同州ニ他ノ事実上ノ政權現レテ其基礎ヲ固メタリコハ非社會主義的住民代表者委員會幹部ナリ同政權ハ其道德的勢力並ニ住民ノ同情ニノミヨリテ存在シタリ「アントノフ」政府ハコレヲ恐ルルコト甚シカリキ同政府ハ政變及ビ暴動ヲ予期シタルトキハ必ズ委員會幹部部長トシテノ余ニ援助ヲ求メタリコノ政權ガ如何ニ有力ナリシカハコノ道德的政權ガ「アントノフ」政府ニ代リテ發布シタルアラユル指令ガ住民ノ大部分ニヨリテ不服ナク遵守セラレタルコトニヨリテモ窺知シ得ベシソレニモ拘ラズ日本及ビ日本派遣軍ノ代表者等ハコノ「アントノフ」

アラユル屈從的懇願ニモ拘ラズ国民的非共產主義的政權ハ最初ノ一箇月半ノ間ニ於テ全州ニ對シ螺旋銃六百挺マタ現今迄ノ間ニ於テ二千挺ヲ得タルノミナリ然シテコレモ全ク信頼シ得ベキ軍隊ノ為ニ非ズシテ市郡ノ民兵ノ為ナリシナリ軍隊ハ一挺ノ螺旋銃ヲモ得ザリキ

シカシテコハ馬賊及ビ「バルチザン」ガ住民ヲ強制シコレヨリ徵發ヲナシ市民ヲ山地ニ誘拐シコレヲ殺害シナドシ住民ハ政府ニ保護ヲ乞ヘルノ時ナリシナリ

二、沿海州ニ於ケル「エス・エル、コムニスト」政權ノ没落以前ハ日本派遣軍司令部及ビ各地ニアル日本ノ外交官ハ「トベリソン」ノ純共產的政權ト如何ナル交渉ヲモナスコトヲ拒絶シ居リタリ

沿海州ニ於ケル政權ガ国民的非共產主義的政府ノ手ニ移ルヤ否ヤ日本側ノ島田及ビ渡辺ハ「チタ」勞農政府側ノ「ツエイトリン」及ビ「コジエヴニコフ」ト友誼的交渉ヲ開始セリ日本軍司令部代表者モ同様ノコトヲナシタリ

カカル交渉ニヨリテ日本人ハ住民ノ一部ヲシテ同政權ヲ有力ニシテ權威アルモノナリト思ハシムルニ至レリ況ンヤ外交官及ビ軍人が同時ニ沿黒竜州政府トノ交渉ヲ頑強ニ拒絶

政府以上ニ住民ニヨリテ承認セラレタル政權ヲ全ク無視シコレヲ相手トスルコトヲ好マザリキ

彼此ノ地位転倒セル今日ニ於テハ事態ハ全ク異リ前政權ノ代表者ハ一時日本官署ニ身ヲ隠シ其後「ハルビン」、「アヌチノ」及ビ「イマン」ニ逃レタリ「イマン」ニ於テ喜劇的政府ヲ建テテ沿海州政府ニ擬セリ同地ニ於テ同様ニ喜劇的ナル四人ノ農夫及ビ二十人ノ「ハバロフスク」ノ赤衛兵共產黨員ヨリ成ル國民議會ヲ召集セリ「アヌチノ」ニ於テ逃走シタル「レピョーヒン」ハ「極東共和國軍」司令部ヲ組織セリスベテ彼等ノナス所ガ如何ニ幻影的虚構的且ツ喜劇的ナルカハ次ノ事実ニヨリテ推量スルヲ得ベシ沿海州政府ハ七人ノ閣員ヨリ成リタリ官制上七人ノ閣員ヲ有セザルトキハ政府タルコト能ハザリシナリサレドコノ七人ノ中「ヴィフリストフ」ハ「ハルビン」ニ去リ「ベルラツキ」ハ「チタ」ニ去リテ「大臣」トナリ「マスレンニコフ」ハ「スーチャン」ニ在リテ「オリギンスカヤ、ゼハスカヤ、ウブラヴァ」ト名ヅクル或施設ニ屬シ「アボイモフ」ト「ニコラエフ」トハ浦塩斯德ナル沿黒竜州國民議會ニ屬スサレバ前沿海州七人ノ閣員中「イマン」ニ留レルハ

タダ二人ノミニシテソノ中一人ハ議長「アントノフ」ナリ

如何ニ強弁スルトモ「イマン」ニ沿海州政府ナルモノノ存在セザルコトハ明白ナラズヤ然ルニ当地駐在ノ日本外交官及ビ日本軍司令部ハ真面目ラシク「アントノフ」ト其一人ノ同僚ト「沿海州政府」ト名ヅケ、コレヲ沿海州政府ト同等ノモノトナシ居レリシカノミナラズ彼等ハ「イマン」ニ於ケル喜劇的「國民議會」ヲ沿海州國民議會トシテ取扱ヒ居レリサレド沿海州政府ハ同議會ノ会期終了（六月二十日）ニ先ツコト十五日ニシテ同議會ヲ解散セシナリサレバカカル議會ハ決シテ存在シ得ザリシナリ

「マタレビョーヒン」ニ司令官トシテノ意義ヲ其司令部ニ「極東共和国軍司令部」トシテノ意義ヲ与ヘントスル日本派遣軍司令部ノ努力モコレニ劣ラズ不自然ナルモノナリ日本軍司令部ハ一九二〇年四月二十九日ノ協定ニ從ツテ彼等ト真面目ナル交渉ヲナシ居レリ然ルニコノ協定ハ「メドヴェジエフ」政府トノ間ニ締結セラレタルモノニシテ「アントノフ」政府ノ没落以前ニ於テハ日本軍司令部ハ決シテ極東共和国軍ナルモノヲ認メズソレト何等ノ協定ヲモ有セザ

部ノ保管ノ下ニアリテ吾人ガ現在手ニスルコトヲ得ザル物品ヲ販売シマタ担保ニ入ルルコトヲ沿海州政府ニ許スベシコレヲ物品ハ当地ニ「エス・エル、コムニスト」ノ政權アリシトキハ日本軍ノ保管ニ移リシモノナリサレバ今や当地ニ純然タル非共產主義的政府樹立セラレテ「コムニスト」ハ国事犯者トシテ宣告セラレタルトキニ於テコレヲ物品ノ禁止ヲ解カザルノ理由ナキナリ

コレヲ物品ヲ日本商人ニナリトモ販売シ或ハ担保ニ入ルレバ吾人ハ吾人ノ地位ヲ堅固ニシマタ全沿海州ニ於ケル共產主義的政權ノ全滅ヲ早ムルノ可能ヲ与フベキ巨額ノ資金ヲ得ルコト能フベキナリ

同州ニ於テハ「コムニスト」ノ压制ノ下ニ呻吟シ破産シ滅亡シツツアル住民ハ吾人ノ援助ヲ求メツツアルナリ若シ今吾人ニシテ千万留ノ資金ヲ有スレバ全沿海州ハ速カニ「コムニスト」ノ羈絆ヲ脱スベクマタ「シベリヤ」ニ於ケル過激派主義ヲ破滅セシムルニ際シ吾人ハ或程度ノ貢獻ヲナスヲ得ベシト余ハ確信ス

日本人ハ滿洲及ビ朝鮮ニ於ケル過激派主義ノ伝播ノ危険ニ對シ盲目ナルコト能ハザルニ非ズヤ

ルモノトナシ居タリ

共和主義的政權ノ没落後ニ至ルヤ突如トシテ極東共和国軍其司令官、同軍トノ間ニ存在セザリシ協定ガ何故カ日本軍司令部ニトリテ有意義ノモノノ如クニナレリ同時ニ同司令部ハ沿海州政府ノ如何ナル軍隊ヲモ認メズマタ同政府ノ武力ニヨル秩序恢復ノ權利ヲモ認メズトノ理由ニヨリテ同政府ニ武装シタル共產主義的賊団剿滅ノ可能ヲ与ヘザルナリ日本政府ガ吾人ニ「カッペリ」軍ニ属セシモノヨリ自己ノ軍隊ヲ組織シ秩序ヲ恢復スルコトヲ可能ナラシメコレニ障礙ヲ与ヘザルコトヲ吾人ハ肝要ナリト認ムコレガ為ニハ武器ノ返戻及ビ軍隊ノ移動ノ自由ヲ必要トスコレラ「カッペリ」軍ハ絶対ニ非共產主義的ニシテ軍規アリ且ツ思想的ニ健全ナルモノナレバ日本人ニトリテ決シテ危険ナルモノニ非ズコレラノ処置ハ現在ニ於テ即チ日本軍撤退以前ニ於テコレヲ採ラザルベカラズ若シ吾人ノコノ計画ヲ阻止スルモノナクバ余ハ来ルベキ冬期迄ニハ全「アムール」州及ビ進ンデハ恐ラク「ザバイカル」州マデモ吾人ニ結合スルニ至ルベシト確信ス

恐ラク日本政府ハ一九二〇年四月四、五日以来日本軍司令

シカシテ当地ニ於テ伝播ト戦ヒ從ツテ日本ヲ同主義ヨリ防禦スルノ目的ニ於テハ吾人ハ当地ニ軍隊ヲ有スル日本ヨリ遙カニ勝レルモノナリ

日本政治家ハ共產主義的政權ハ無邪氣ナル極東共和国ノ「民主主義」ヲ装ヒ居レドモ決シテ日本ノ瓦解ヲ見ザルウチハ満足セザルモノナルニ一方吾人ハ当地ニ於テ日本ノヨシンバ有力ナラズトスルモ重要ナル友誼の勢力タルコトヲ得ルモノナルコトヲ考慮ニ入ルベキナリコノ共產主義的政權ノ野心アレバコソ「アメリカ」ハ「チタ」及ビ「トベリソン」ノ「政府」ニ同情ヲ有スルナレ

ナホ内政状態ニツキ附言センニ地方農民ノ大多数ノ吾ガ政府ニ對スル同情ノ増大スルニ從ヒテ漸次安定ニ進ミツツアリ住民ハタダ吾人ガ彼等ヲ「パルチザン」及ビ馬賊ヨリ保護セザルコトニノミ不安ヲ感ジツツアレドモ吾人ニコノ保護ヲ与フル能ハザルハ職トシテ日本軍司令部ガ障礙ヲ与フルガ為ナリ

（欄外註記）

「大正十年八月十七日クルペンスキー氏來談手交（内田外相印）」

七三六 八月三十日

在浦潮永井政務部長代理ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

浦潮メルクーロフ政権ニ対スル一般不満ノ増
大ト政変ノ動向ニ付報告ノ件

別電 同日永井政務部長代理宛内田外務大臣宛電報第

四二九号

東部西比利亞ニ民主主義体制ノ新国家ヲ樹立セ
ントスルマンズエートフノ構想ニ付報告ノ件

第四二八号

(八月三十一日接受)

最近当地ノ政情ヲ觀ルニ「メルクーロフ」政権ハ国民議會
ヲ擁シ民主主義ヲ標榜シテ樹立サレタルモノナルニ拘ラズ
代議機關タル国民議會ハ回ヲ重ヌルコト既ニ十二回ニ及ベ
ルニ其ノ間徒ニ各反對党ノ揚足取りニ汲々トシテ何等國家
の重要問題ヲ議スルコトナク政府当局ハ議會ニ於ケル多数
党ヲ恃ミテ言論ヲ圧迫シ(新タニ新聞紙發行条令ヲ規定シ
嚴重ナル檢閲ヲ為スト共ニ政府ノ忌諱ニ触レ發行ヲ禁止セ
ラルモノ頻リナリ)又ハ勞働者ノ集会ニ干涉シ個人ノ不
可侵權ヲ侵害(強盜等嫌疑者ノ家宅搜索等ヲ指ス)スル等
其ノ為ス所毫モ旧露帝國ノ末路近クニ於ケルモノト異ラズ
毫モ民主主義ノ実効ヲ見ズ加フルニ財政ノ窮迫極度ニ達シ

八月三十日在浦潮永井政務部長代理宛内田外務大臣宛電報第四
二九号

東部西比利亞ニ民主主義体制ノ新国家ヲ樹立セントスルマンズ
エートフノ構想ニ付報告ノ件

第四二九号(別電)

(八月三十一日接受)

「マンズエートフ」ハ先ヅ其ノ時局觀及自己一派ノ希望ヲ
述ベテ曰ク「メルクーロフ」政権ノ早晚失墜スベキハ何人
モ疑ハザル所ニシテ同政権ハ偶々日本軍駐屯ノ御陰ニテ存
在スルニ過ギズ自分一派ノ憂フル所ハ大連會議ノ成行如何
ニ在リ同會議ノ結果日本軍ノ撤兵トモナラバ当地方ガ即時
チタ政府ノ統治下ニ属スルコトナルベキハ想像ニ難カラ
ズ然ルニ現チタ政府ガ常ニ過激主義ナル勞農露國ヨリ財政
ハ勿論軍事上ノ支援ヲ受ケツツアル關係ヨリ当地方モ亦当
然過激派指揮ノ政権下ニ推移シ多数民衆ガ再び塗炭ノ苦楚
ヲ嘗ムルニ至ルベキハ明瞭ナル処吾人一派ハ終始民主主義
ヲ以テ一貫スルモノニシテ断ジテ過激派ノ瀾漫ニ反對セム
トスルモノナル以上此ノ点ニ付衷心憂慮ニ堪ヘザル次第ニ
シテ目下チタ政府ハ別トシテ「メ」政府ヲ顛覆スル如キハ
易々タルコトナルモ外国ヨリ財政及軍器ノ援助無キ限り何

纔ニ旧露帝國ノ在庫軍用品ノ投売ニ依リ命脈ヲ保チ居ルニ
過ギズ(去ル六月以後月々ノ收入不足六拾余万金留ニ達シ
猶益々不足額増加ノ傾向アル為勞働者ヘノ賃金ヲ除キテハ
各官公衙勤人等ニ対スル給料ノ仕払モ十分ナラズ「カッペ
リ」軍ニ対スル給養モ亦同ジ)斯クノ如キ政府ニ対シ州内
人民ノ利益擁護ヲ依託スルコト思ヒモ依ラズト為シ「メル
クーロフ」政権ニ対スル不平ノ声漸ク高マリ居ル折柄当地
ニ於ケル「エス、エル」党ノ領袖「マンセートフ」ヲ中心
トスル「エス、エル」党派派左党「クルウグリコフ」(沿
海州臨時政府時代ノ交通大臣)民主同盟会ノ「ズナアメイ
スキー」民主同盟会ノ「ボルズイレフ」將軍(臨時政府時
代ノ陸軍大臣)等ハ密カニ「カッペリ」總司令官「ウエル
ジビッキ」中將ヲ抱キ込ミ当地ニ於テ政變ヲ企圖シ居ル
ノ風聞專ラナルニ付之カ真相ノ探知ニ努メ居タル処八月三
十日当部平塚カ磯村參謀長ト共ニ右「マンセートフ」ト会
見ノ際彼ノ語ル所ニ依リテ彼等一派ノ意向ヲ確メ得タルニ
依リ其ノ際ノ会谈要領別電第四二九号ノ通り電報ス

本電別電ト共ニ大連ヘ電報シタリ

(別電)

人ト雖モ政變後ノ施政ニ當リ得ルモノ有ラザルベク之レ
「メ」政府ガ兎モ角モ今日迄其ノ命脈ヲ保チ居ル所以ニシ
テ然リトテ今後チタ政権ノ治下トナルコトハ前陳ノ通り事
實上過激主義ニ侵サルコトナルモノナレバ勿論吾人ノ
到底忍ブ能ハザル所ナリ最近チタ政権ノ意向ヲ推測スルニ
日米兩國ヲ煽動シ使嗾シテ互ニ其ノ国力ヲ消耗セシメ以テ
己ノ安全ヲ計ラムトスルノ形跡歴然タリ右ハ或ハ勞農政府
ノ指示ニ依ルモノナルベキモ之レ大ナル過誤ト言ハザルベ
カラズ自分等ハ遠キ米國等ハ之ヲ当分度外視シ隣國タル日
支ト提携スルヲ以テ最モ良策ト考ヘ居ル次第ニテ此ノ際何
レカノ外國ヨリ前記財政軍事ノ援助ヲ受ケ更メテ「ハバロ
フスク」ニ達スル旧沿海州領土ヲ治下トスル新政権ヲ樹立
シチタ政権ト妥協シテ互ニ独立シ真ノ民主主義トシテ場合
ニ依リテハチタヲ矯正指導シ共ニ勞農政府ヨリ獨立セル東
部西比利亞ノ民主國ヲ樹立シ度ク之レ吾人ノ理想ニシテ極
東露人全体ノ希望タルヲ疑ハズ何レニセヨ前記財政及軍事
上ノ支援ヲ得ルコトガ第一ノ要件ナリトテ日本ニ對シ探リ
ヲ入レタル如キ口吻アリタルニ付參謀長ハ大連會議開始
ノ事實ナルコト同會議協議ハ通商ニ在リ何等日本軍撤退ニ

触レ居ラザル管ナルモ交渉ノ成行次第ニ依リテハ自然撤兵ニ関スル協議ニ移ルヤモ計ラレザルコト個人トシテノ意見ヲ述ベ日本ハ既ニ本会議ヲ開始シタル以上会議進行中当州其ノ他ニ何等新政権ノ出現スルコトアリトスルモ之ニ対シ財政ハ勿論軍事上ニモ何等支援シ得ザルハ從來ノ宣言ニ徴スルモ明瞭ナル次第ニテ万一「メ」政権ガ今後共自滅セズ州内人民ノ期待ニ添ヒ秩序ヲ維持シ善政ヲ布クニ於テハ改メテ「チタ」側ト妥協方ヲ勧告スルノ必要起ルヤモ知レズ都合ニ依リテハ貴党一派ガ「メ」政権ヲ懲罰シテ目下「イマン」地方ニ蟠踞スル「アントーノフ」一派ト妥協セシムル方法無キヤト反問シタルニ「マ」ハ右ノ妥協ハ可能ナルモ自分等ハ主義トシテ之ニ反対ナリ蓋シ「ア」一派ハ元々過激主義ヲ遵奉スルチタ政府ノ派遣員ナレバ「メ」政権ハ如何ニ窮スルモ其ノ策ニハ出デザルベク仮ニ自分等ガ今後「メ」政権ニ代ルトシテモ「ア」等ト妥協スルヲ得ズト飽ク迄反対シタルガ参謀長ハ今後仮ニ日本ガチタ側ト交渉ノ結果兩國通商開始日本軍撤退ノコトトナルトモ其ノ際日本トシテハチタ側ヨリ各般ノ保障ヲ取ルコトナルベケレバ足下ノ心配スル程ノ事無カルベシト述ベタルニ「マ」ハ頗ル

不満ノ色ニテチタ政権ハ財政上軍事上其ノ他目下頗ル逼迫シ居ルノ事情ニ鑑ミ仮令日本ト協約ヲ締結スルモ日本側ヨリ之ニ対シテ財政其ノ他ノ援助ヲ与ヘザル限リ到底協約ノ条項ヲ遵守スルコト無カルベシト歎息再会ヲ約シテ引取りタリ

七三七 八月三十一日

在ハルビン浜面少将ヨリ
松島政務部長(大連出張中)宛(電報)

セミヨーノフノ退去準備及軍ノ動搖ニ付通報

ノ件

(註)一〇六六転電

「セメノフ」ハ八月二十九日附命令第一六七号ヲ以テ「グレエボフ」中將(グロデコオ)ヲ兵团総指揮官ニ同日命令第一六五号ヲ以テ「ドウビーニン」大佐ヲ同参謀長ニ任命ノ件公表セリ之レ「セ」ノ退去準備ノ第一歩ニシテ右発表以来「セ」軍ノ動搖漸ク著シク又本日ハ食料供給ノ第四日ニシテ口論掩撃等至ル所ニ行ハルルヲ見ル而シテ「グレエボフ」ハ其ノ妻「ナボウテウ」ト共ニ目下浦潮ニアリト(大連済)註「グロ」トアルハ「グロデコオ」ヨリ来電ノ意

七三八 九月四日

在浦潮永井政務部長代理ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

日本政府ト極東共和国政府トノ大連會議ニ関

シ治黒竜州政府ヨリ抗議ノ件

第四三二号

治黒竜政府ハ九月三日内容左ノ如キ覚書ヲ当部ニ送附シ来レリ

臨時治黒竜政府ハ今回大連會議ニ於テ日本帝国政府ト所謂極東共和国政府トノ各代表者間ニ商議開始セラレタリトノ報告ニ接シタルガ本政府ハ前記共和国政府カ該會議ニ於テ日本政府トノ間ニ經濟及政治上ニ関スル協約ヲ締結セムカ為極東全住民ノ名ヲ冒シ其ノ全權ヲ代表スルモノト称シテ全露政府ニ限り為シ得ラルヘキ諸問題ヲ決スヘク希望シ居レリトノ新聞紙上ノ記事ヲ見茲ニ謹ムテ日本帝国政府ノ注意ヲ喚起セムトスチタ政府ハ移住者ニ依リ組織セラレ且其ノ財政モ「ソヴィエツト」政府ノ目的ニ依リ成立ツモノニシテ極東人民ノ名ヲ以テスヘキ何等ノ權利ヲ有セス所謂チタ政府ノ試ミトスル露国所屬ノ利権財産等ノ処分ハ其ノ所有者ノ權利ニ屬スルモノナリ仍テ本政府ハ所謂チタ政府

ノ今回ノ行為ニ反対スルモノニシテ極東ノ財政經濟問題ニ関シ露国人民就中極東露国人民ノ利益ヲ侵害スル協約ハ其ノ如何ナル種類ノモノタルヲ問ハス之ヲ承認セサルモノナルコトヲ茲ニ声明ス云々

大連ニ転電済

七三九 九月七日

在浦潮弘報部長ヨリ
松島政務部長(大連出張中)宛(電報)

大連會議ニ関スル浦潮新聞ノ諸報道通報ノ件

新聞報第十二

一 「ルスキークライ」ハ一昨五日国民議會議員聯合協議會開催セラレ大連會議ノ如キ重要問題ニ関シ各派ノ歩調ヲ統一スルコトヲ協議シ尙席上沿海州ヲ除外シテ日本ガチタト妥協シ難キコトニ関シ日本国民ノ如何ニ觀察スルカヲ知ル為日本ニ委員ヲ送ルヘク決議セリト伝フルモ記事ノ出所不明ナリ

二 哈爾賓ノ「ルスキーゴース」ノ記者ノ「メルクーロフ」トノ會談トシテ「ナーシエウエーチエル」ノ伝フル所ニ依レハ「メ」曰ク日本政府ハチタ政府ト同様我政府ヲ国家的団体ト認め且之ヲ支持スヘキヲ以テ大連會議ニ

関シ敢テ聞ク所ナシト

三 「メ」カ日本政府ニ「メモランダム」ヲ發セシコトハ
事實ナリ（新聞報第十号参照）

七四〇 九月七日 内田外務大臣ヨリ
在浦潮渡辺総領事代理宛（電報）

メルクーロフ政權ガ濠洲人ニ蘇城炭鉱採掘權
等許与ノ問題ニ付事實内探方訓令ノ件

第一一九号

本月二日「メルクーロフ」カ五味大佐ニ対シ濠洲人「メン
ドリナヤ」ナル者浦潮英國領事ヲ經テ蘇城炭鉱ノ採掘權及
烏蘇里鐵道一部運行權ノ獲取及之ニ対シ初回五百万留ノ借
款並五百万留ノ物資二百萬留ニ価スル農具ノ提供ヲ「メ」
政權ニ申込ミ政權ハ之ニ応スル心組ナルカ在来ノ關係モア
リ一応日本ノ意向承知シタキ旨語リタル趣ナルカ右ハ或ハ
我方ニ対スル「メ」ノ政略ニアラスヤト思ハルルモ万一事
實トセハ烏蘇里鐵道ノ件ハ聯合國共同管理ノ此ノ際実行不
可能ナルハ勿論ナルカ蘇城炭鉱ハ外國人ノ手ニ渡ルカ如キ
コトアリテハ面白カラザルニ付貴官ハ夫トナク右事實ノ有
無内探ノ上電報アリタシ

本官發松島宛電報第一〇号

貴電第一〇号ニ関シ

当地政府首班（兄）「メルクーロフ」目下病氣引籠中ニ付
九月十日（弟）「メ」ニ面会本件事実ノ有無ヲ質シタル処
過般某日本商人ヨリ借款ノ申出アリ政府部長會議ニ於テモ
之カ抵当トシテ「レール」ヲ提供スルコトニ決シタルモ其
後本人ヨリ我陸軍側ノ内意ヲ伺ヒタルニ之ヲ許サザリシ為
本件借款ハ全然不調トナリタリトノコトナリ尙九月七日ノ
鐵道委員會ハ沿黒竜政府カ滿鉄保管ノ「レール」百万布度
ヲ政府取引ノ担保ニ為スヘシト決議シタルコトニ付右ハ聯
合國管理機關ノ管理ニ属シ濫リニ処分シ得サルモノナルコ
トヲ同政府ニ対シ予メ警告スルコトニ決議シタリ本件取引
ト關係アルモノナルヤニ察セラル

右大臣ニ転電済ミ

七四三 九月十二日 内田外務大臣ヨリ
在上海山崎總領事宛（電報）

セミヨーノフノ上海亡命ニ付通報ノ件

第一一〇号

「セミヨーノフ」ト「メルクーロフ」トノ妥協不調ニ終リ「

大連へ転電セリ

七四一 九月九日 松島政務部長（大連出張中）ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

チタ政府首相代理ベトロフヨリ某日本人ノメ
ルクーロフ政權ヘノ貸付ニ付抗議アリタル件

第一二号 （九月九日接受）

本官發政務部宛電報第一〇号左ノ通

九月八日會議ノ際「ベトロフ」ハ在哈爾濱「オザルニン」
ノ電報ニ依レハ某日本人ハ「メルクーロフ」政權ニ対シ価
格参百万円ノ軌条ヲ抵当トシテ該價格ノ七割五分ヲ貸付タ
リトノ事ナル処目下当地會議開催中ナルニ鑑ミ此際日本人
ニ於テ此ノ如キ共和国法ニ違反スル行為ナキ様取締ヲ請フ
ト申出デタリ右事實疑ハシキ様思考スルモ念ノ為取調ヘ御
回電アリタシ

七四二 九月十日 在浦潮永井政務部長代理ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

メルクーロフ政權ヘノ日本商人ノ借款提供問
題ハ我陸軍ノ反対ニ依リ不調トナリタル件

第四三六号 （九月十日接受）

セ」ハ近親十二名ト共ニ九月十四日浦潮出帆ノ鳳山丸ニテ
敦賀神戸ヲ經テ一先ツ上海ニ亡命スルコトナレリ右御含
ミマデ北京へ転電アリタシ

註 本件ニ就テハ後出ノ在浦潮永井政務部長代理發内田外務大臣
宛電報第四四〇号（七四九文書）及在天津船津總領事發内田
外務大臣宛機密第一三四号（七五五文書）参看

七四四 九月十三日 内田外務大臣ヨリ
松島政務部長（大連出張中）宛（電報）

沿海州沿岸航行中ノ船舶ヨリ物資押収ヲ行フ
オリガ政治団ノ行動ニ付チタ政府側ト折衝方
訓電ノ件

第一五号

共產党ニ属スル「オリガ」政治団ナルモノ「オリガ」ヲ根
拠トシ沿海州沿岸航行ノ露國船舶ヲ抑留シ糧食衣服金品ヲ
押収シツツアリ目下邦人ニ危害ヲ加フル模様ナキモ同地方
在留民ハ必要物質ノ供給並ニ生命財産ノ安全ニ付不安ヲ感
シツツアル処海軍側電報ニヨレハ右政治団ハチタ政府ノ意
ヲ受ケテ行動シ居ルヤニ推測セラルルニ付貴官ハ露國側ニ
就キ右政治団トチタ政府トノ關係ヲ確メ果シテ關係アルニ

於テハ同地方邦人ニ対スル物資輸送並ニ生命財産ノ安全ヲ保障セシムル様措置セラレ度ク又何等關係ナシトスルモチタ側ニ於テ保護ノ責ニ任セザルニ於テハ我方ハ自衛上必要ノ手段ヲ執ルコトアルヘキ旨申入レラルヘシ在浦潮總領事館ニ転電シ尙政務部ヘ伝ヘシメラレタシ

七四五 九月十四日

内田外務大臣ヨリ
松島政務部長(大連出
張中)
在ベトロバウロフスク
山口領事 各宛(電報)

浦潮メルクローフ政權ノ勘察加派遣隊計画実

行ニ付通報ノ件

合第二八一号

在浦潮總領事代理來電ニ依レバ「メ」政權ノ勘察加派遣隊計画実行ハ種々ノ事情ノ為メ遷延シ居タル処此ノ程漸ク進展シタルモノノ如ク今ヤ義勇艦隊汽船「キシネフ」海軍特務艦「スウィル」及水路部船「オホツク」(出否未定ナリト)ハ夫々準備中ニテ既ニ「キシネフ」号ニハ「ボチカレヨフ」部隊約三百名乗込ミ居リ其ノ他ノ人員必需品等積込ミ次第本月十三、四日頃浦潮出帆函館經由「ベトロバウロ

フスク」ニ向フ予定ノ由(一説ニハ尼港哈府ヲ経テ「ブラゴエ」方面ニ向フト伝ヘラルルモ疑ハシ)ニテ目下ノ処武器ハ獵銃ノ外積込ミ居ラザルモ兵員ノ増加及相当武器ノ積込ハ可能性ヲ有セル如シ尙同隊ニハ浦潮派遣軍野戰交通部通訳タリシ中川弥太郎外一名ノ邦人通訳名義ニテ同行ヲ企テ居ル由ナルガ中川ハ渡航後炭鉱其ノ他ニ従事スベク「ボ」一行ト行動ヲ共ニセザル旨ヲ語リ居リ他ノ邦人等モ一種冒險的行商ヲ企ツルモノノ如シ

七四六 九月十四日

在浦潮永井政務部長代理ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

郡司副領事ヨリチタ政府ハ大連會議不調ノ際
バルチザンヲシテ日本軍ヲ攻撃セシメントス
トノ情報報告ノ件

第四三七号

郡司ヨリ左ノ通り

第四〇号

外務大臣ヘ転電アリタシ

第三三号

当地旅団司令部ノ得タル情報ニ依レバチタ軍憲ハ「スーチ

言書中極東共和国及大連會議ニ関スル部分報

告ノ件

第四三九号

(九月十六日接受)

当地政府新首相「イワノーフ」ハ九月十三日ノ国民議會ニ於テ政府ノ宣言書ヲ發表シタルガ其對外政策中対極東共和国並大連會議ニ関シテハ大要左ノ如ク声明シタリ

吾人ノ対勞農露国並極東共和国政策ハ毫モ從來ト異ル所無ク飽迄彼等ト融和スル能ハズ去ル五月二十六日ノ政變ハ極東ヲ過激化セシメザラムガ為ニ行ハレタルモノニシテ勞農露国政府ト極東共和国トハ其内容主義政策等ニ於テ何等異ル所無シ極東共和国ハ勞農露国ノ正体ヲ隱蔽スル屏風ニ過ギズ故ニ吾人ハ正義ノ為終始一貫兩國ヲ敵トセザルヲ得ズ最近当州内鉄道沿線各所ニ於テ「バルチザン」ヲ煽動シテ絶エズ列車ヲ爆破シ無辜ノ良民ヲ脅スノミナラズ住民ヲ嚇シテ排日ノ行為ニ出デシメタルモノハ悉ク大連會議ニ与リ居ル所謂極東共和国ナリ同會議ノ開催ニ対シ恐怖ノ念ヲ抱クモノアルモ吾人ハ之ニ依リテ何等脅威ヲ感ズルモノニアラズ同會議タルヤ吾人ヲ加ヘザル以上極東ノ諸問題ヲ決定スルニ何等ノ意味ヲ齎スモノニアラズ即チ同會議ニ於テ如

ヤン」及当地方ノ赤軍「バルチザン」ニ対シテ大連會議ニテ妥協ヲ見ザルトキハ各方面ヨリ一斉ニ日本軍ヲ攻撃シ鉄道路路橋梁ヲ破壊スベキ命令ヲ發シタル由ナルガ其ノ後ノ情報ニ依レバチタ政府ハ大連會議ノ結果ニ依リテハ「ウスリー」浦潮間ノ鐵道爆破ヲ決行スベク運動費金貨百五十万留支出シ各地ニ爆破団ヲ組織シ在浦潮技師「フリダ」(偽名ナルヤモ知レズ)ヲ指揮官トシテ爆破材料ヲ浦潮ヨリ供給シ当地浦潮間ハ既ニ二十四ヶ所ノ爆破裝置ヲ終リ目下当地以北ニ裝置中ナリト云フ

最近赤軍ノ南下ニ伴ヒ不逞鮮人団南下シ來リ馬賊ヲ驅逐シツツアリ為ニ昨今「スイヤギノ」及当地ニ良民ヲ装ヒ入込メル馬賊鮮カラズ彼等ハ阿片ヲ所持シ居ルニ依リ支那商人ハ隠然保護ヲ与ヘ居レリ

本電ハ政務部ヨリ大連ヘ転電セリ

註 郡司智磨副領事ハ大正九年十月スバスカヤニ出張ヲ命ゼラレタリ

七四七 九月十五日

在浦潮永井政務部長代理ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

浦潮政府新首相ガ国民會議ニ於テ發表セル宣

一六 反過激派關係雜件 七四七

何ニ決定セラルトモチタ政府ヨリ独立セル吾人ノ政權ニ
変化ヲ及ボスモノニアラザルヲ以テ我國民議會ハ該會議ノ
成行ニ対シ極メテ冷靜ナルベシ蓋シ日本ハチタ政府共產党
ノ仕組ミツツアル平和愛好者タル「デモクラット」喜劇ヲ
信ズルモノニアラザルベシ見ヨ共產党ハ大連會議ナル御祭
騷ニ乗ジ人ヲ滿洲及朝鮮ニ派シテ益々共產主義ノ宣伝ニ努
メ支那ヲ嚇シ排日ノ氣勢ヲ高メツツアルニアラズヤ之万人
周知ノ事實ナリ吾人ハ日本ガ極東共和国ヨリ保障ヲ得其居
留民ノ生命財産ノ安固ナル運命ヲ確信スル迄対露政策ヲ變
更スルモノニアラザルヲ知ル日本ハ仮令其兵ヲ沿海州ヨリ
撤スルトモ國境監査ノ必要上之ヲ國境ニ駐メ必要ニ応ジ更
ニ州内ニ招致スルナルベク結局沿海州ヲ以テ勞農露國ト日
本トノ間ニ介在スル善隣ノ緩衝地帶トシテ存置セラルルコ
トトナルハ明白ナリ但シ極東共和国ハ吾人ノ政府ト戦ハム
トシツツアリ吾人ハ過激派軍ノ襲来ニ備ヘザルベカラズ我
臨時政府ハ自己ノ事業完了次第政權ヲ更ニ自己以上ノ強大
且正当ナル國民政府ニ讓渡セムトスルノ用意アリ云々
右大連へ電報シタリ

七四九 九月十五日

在浦潮永井政務部長代理ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

セミヨノフノ上海亡命ニ付同人及我軍間ノ
取極並セミヨノフ軍隊ノ後始末ニ関スル件
第四四〇号 (九月十六日接受)

「セミヨノフ」ハ最近ニ至リ政權及統帥權ノ全部ヲ放棄
シテ外國ニ亡命スルコトニ決シ我軍ニ哀願スル所アリ九月
十四日当地出發ノ鳳山丸ニテ十余名ノ隨行員ト共ニ敦賀經
由上海亡命ノ途ニ上リタルガ軍ハ其ノ退去ニ際シ旅費及生
活費ノ補助トシテ金十萬円ヲ贈与シ日本軍西比利亞駐屯中
ハ其ノ駐屯地ニ復帰セザルコト、上海ニ至ル途中通過スル
際ノ外一切日本領土及其ノ勢力範圍内ニ立入ラザルコト及
日本國及日本軍ニ対シ今後何等ノ請求又ハ言掛リヲ為サズ
「セミヨノフ」及其ノ旧部下ハ日本國及日本軍ニ対シ全
然無關係ナルコトヲ誓約セシメタリ「セミヨノフ」ハ上
海亡命後機ヲ見テ外國ニ向フ管ナリ「セミヨノフ」軍司
令官「サウエリエフ」中將辭職ノ後ヲ受ケ新タニ「セミヨ
ノフ」旧部下ノ指揮官ト成リタル「グレーボフ」中將ハ
当地沿黒龍政府ニ対シ旧「グロデコー」部隊ヲ率ヒテ政府

七四八 九月十五日

松島政務部長(大連出張中)ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

沿海州沿岸航行船舶ヨリ物資押収ヲ行フオリ
ガ団ノ行動ニ付チタ政府側トノ交渉結果報告
ノ件

第一七号

(九月十五日接受)

貴電第一五号ニ関シ

會議休会中ニ付九月十四日島田ヲ「ペトロフ」方ニ遣シタ
ルニ「ペ」ハ「コゼ」ヲ招キ現場ノ事情調査ノ上何分ノ回
答ヲナスベキ旨ヲ答ヘ「コゼ」ハ「オリガ」地方ガ全然チ
タ側ニ服従シ居レルニ依リ早速「アルトノフ」經由命令シ
日本官民生命財産ノ保護方並ニ食糧品其他取寄ニ関シ便宜
取計方命令スベキ旨ヲ約シ尙「コゼ」ハ「メルクーロフ」
側ヨリ船舶其他ノ物品掠奪ノ為来ル者多キニ依リ「オリガ」
官憲ニテハ之ニ對抗スルノ手段ニ出デ居ルモノナリト附言
セリ

右政務部及渡辺ニ転電セリ

註「コゼ」ハチタ側委員「コゼウニコフ」

ニ直屬シ政府ノ命令ニ服従ス可シトノ提議ヲ為シ政府員中
不同意ヲ唱ヘタルモノアルモ結局「メルクーロフ」ハ一先
ツ右提案ヲ承認スルコトトシ爾来「セミヨノフ」軍ノ給
与ハ当地政府ニ於テ負担スルコトト為レリ
右大連へ電報セリ

七五〇 九月二十三日

在浦潮渡辺總領事代理ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

浦潮政權ノ濠洲人ニ利權許与ノ報道ニ付調査
ノ結果邦人業者ノ借款供与交渉判明ノ件

第一九二号

貴電第一一九号ニ関シ

爾来英國領事側及露國側外交部其ノ他關係ノ向々ハ夫レト
ナク探リヲ入レタルニ執レモ否認シ居タルガ二十二日漸ク
烏蘇里鐵道長官「カチエンコ」ト会見ノ際右ハ哈爾濱林業
家「ポポフ」ニ關係アル仕事師「メンデ」ナル者が事ニス
ル為伝ヘタル風評ニシテ事實ニアラズ然ルニ此ノ程大阪渡
辺合名会社及ニチシヤム会社共同「シンデケート」代表者
小島某ハ通訳瀨沼ヲ介シテ「メ」政權トノ間ニ烏蘇里鐵道
及「スーチャン」事業經營ヲ担保トシテ式千萬金留借款ニ

応スル旨申込アリ之ニ対シ露国側条件ハ左記ノ通りナルガ
右「シンヂケート」ハ果シテ信用アルモノナリヤ内示アリ
タシ小島ハ本計画ニハ満鉄側モ賛成ノ答ニテ愈々具体化セ
バ自ラ早川ニ協議ノ為大連ニ向ケ出発ノ答ナル由云々

右ハ明カニ政治借款ニシテ予テ御内訓モアルニ依リ本官ハ
之ニ対シ斯カル「シンヂケート」ノアルヲ知ラズ從テ其ノ
信用程度ハ不明ナリ小島等ノ提議ガ根拠アルヤ疑問ナリト
答ヘ置キタリ本件如何取計フヘキヤ御回示ヲ請フ

左 記

条件ハ十ヶ条ナリ要点ハ

一、額貳千万金留

二、締約ノ際六百万ヲ又向フ一ヶ年間ニ残額千四百万ヲ渡
スコトトシ之カ担保トシテ烏鉄及「スーチャン」事業

(鉄道及炭鉱)ヲ提供ス

三、出資者ハ烏鉄及「ス」事業ノ財政及技術方面ノ管理權
ヲ有ス

四、期限ヲ拾ヶ年トシ参年後ニ消却ヲ開始ス

五、出資者ハ兩鉄道附近ノ「コンセツション」ニ対シ優越
權ヲ有ス

大連へ電報セリ

七五二 九月三十日

在浦潮永井政務部長代理ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

大連會議ニ対スル浦潮政權ノ態度ニ付浦潮国

民議會ニ於テ討議及決議採択ノ件

第四五六号

(九月三十日接受)

当地国民議會ニ於テハ過日來大連會議ニ関シ討議中ナリシ
ガ農民党一部ノ提案タル「大連會議ハ日露親善策ノ第一歩
ト認ムベキモノナルヲ以テ其ノ成功ヲ歡迎ス但シ其ノ締結
協約ハ露国人民ノ利益ヲ害シ同時ニ之ヲ以テ各種政党政派
ノ勢力増殖ニ利用セシムベカラズ」ト民主同盟党ノ提案タ
ル「列国ヨリ承認セラルベキ全露政權ノ出現迄ハ如何ナル
露国政權ト雖露国人民ノ利害問題ニ関シ外国ト交渉ヲ開始
スルヲ得ズ故ニ何等此ノ種ノ協約等ノ締結セラレタル場合
ト雖他州人民ハ之ヲ遵奉スルノ義務無ク殊ニ沿海州内ノ利
益ニ關係アル問題ハ同政權ノ同意ト其ノ国民議會ノ協賛無
キ限り有効ト認メズ依テ沿海州国民議會ハ大連會議ニ抗議
ス」トノ二案ニ関シ九月二十八日最後ノ討論アリ投票ノ結
果「エスエル」党及前頭農民派ノ一部ノ提案ハ一一ニ対ス

六、兩鉄道及事業財産ヲ担保トシテ他ノ募債ヲ為ス際出資
者ハ優越權ヲ有ス

松島へ転電シ永井へ写ヲ送レリ

七五一 九月二十七日

在浦潮永井政務部長代理ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

浦潮政權ノ勘察加遠征隊出発ニ付報告ノ件

第四四八号

(九月二十八日接受)

諸情報ヲ綜合スルニ先般來勘察加行ヲ伝ヘラレ今日迄行惱
中ナリシ「ボチカレヨフ」遠征隊ハ九月二十四日夜「メル
タローフ」始メ政府員ニ送ラレ汽船「キシネフ」及「スウ
イリ」ノ二隻ニ分乗窃ニ当港ヲ出発目的地ニ向ヒタルガ乗
組人数將官一司令部員二十將校百五十五士卒二百六十計
四百三十六名ニシテ参謀長ハ「ボルコフ」少將諸経費トシ
テ政府ヨリ受ケタル額四万六千円「キシネフ」号ニハ砲四
門裝備セラレタルガ其ノ他ノ銃器モ相当数量アルガ如ク態
ト出発ヲ日没トシタルハ最近右汽船乗組機関士某々等共產
党ニ買収セラレ窃ニ機関ノ要部ヲ破壊セラレシコトアルニ
鑑ミ白昼ニテハ同党ヨリ又々如何ナル妨害ヲ受クルヤモ測
ラレザルカ為ナリト想像セラル

ル五八ノ反対ニテ破レ民主同盟党案多数ニテ可決セラレタ
リ

右大連へ転電セリ

七五三 九月三十日

松島政務部長(大連出張中)ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

メルクローフガ日本資本家ニ松下ゲタル森林

ニ対スルチタ政府ノ措置ニ関シペトロフ談話

ノ件

第二四号

(十月一日接受)

九月二十九日「ペトロフ」ハ在当地東拓代表者ニ対シ左ノ
通語レリ

「メルクローフ」ガ露国人名義ニテ日本資本家ニ松下ゲタ
ル森林ニ関シテハ「チタ」政府ニ於テ慎重考量ヲ加ヘ一概
ニ契約無効ナリトスルハ之ヲ見合セ該契約ヲ改訂シテ可成
日本資本家ト「チタ」政府間トノ契約タラシメントス就中
日露合併ノモノニ対シテハ充分便宜ヲ与ヘントス就テハ大
連會議モ行ハレ居ルニ鑑ミ日本資本家ヨリ「メルクローフ」
ニ支払フベキ第二回以後ノ払込金ハ之ガ納付ヲ見合セラレ
タシ本年冬季中各林区ニ止マル労働者ノ保護方ニ関シテハ

既ニ民警又ハ軍隊ヲ配置スルノ手配成リ居レリ又日本ヨリ現地ニ輸送セラルル労働者ノ旅券手續簡易問題ニ関シテハ大連會議終了後開カルベキ外交官領事官交換ニ関スル特別協定中ニ規定スルコトトスベシ云々

右渡辺へ転電シ永井へ転達セシム

七五四 十月十八日 在浦潮永井政務部長代理ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

メルクーロフ政権顛覆企図ノ発覚ニ付報告ノ件

第四六三号

(十月十九日接受)

客月初旬以来当地地方ニ於ケル政府党タル社会革命党(左)ヲ中心トセル「マンセートフ」一派ハ労働組合並職業同盟会等ヲ糾合シ窃ニ当地政府顛覆ヲ目論ミ居リタルガ政府筋ノ探知スル所トナリ労働及職業組合ノ首魁ヲ検挙セラレタル為「マ」モ身辺ノ危険ヲ察シ何レニカ身ヲ隠シタルガ一方所謂「イマン」政府共產党ノ大立物タル「ツェトリン」モ本月初旬以来密ニ当地ニ入り込ミ「カッペリ」軍ヲ切り崩シテ同様「メルクーロフ」政府ノ顛覆ヲ企図中ナリシ処是亦「メ」政府側ノ探知スル所トナリ「カッペリ」軍中ノ

政変企画嫌疑者將卒七十余名ヲ取調中偶々其ノ自白ニ依リ「ツェ」ノ所在ヲ突き止メ十月十七日夜「ツェ」ガ同志ノ露人方ニテ会食中政府筋ヨリ手ヲ廻シテ其ノ場ニ殺戮セシメ飽迄本件ヲ單ナル強盜ノ所為ト為シ「ツェ」ト同席者ヲ拘引取調中ナルガ家宅搜索ノ結果多数ノ政変用武器ヲ発見シ尙「ツェ」ノ遺留書類ニ依リ最近同人ガ鮮人ヲ傭入レ之ニ日本兵士ノ古服ヲ着用セシメ恰モ日本兵ノ護衛ノ下ニアルガ如ク装ヒ居リタルコト明瞭トナリタルガ辛辣ナル「ツエ」ノ死亡ハ当地地方ニ於ケル共產党ニ取リ一大打撃ナルベク加之近来当地地方多数ノ労働者ガ糊口ニ窮シ政變觀念ニ飽キタルト地方農民ガ漸ク自覺シテ共產党ノ非行ニ懲リ容易ニ其ノ宣伝ニ共鳴セザル風潮顯著トナリタル状況ニ顧ミ当分政變ハ行ハレザルベシト觀測セラル

右大連へ転電セリ

七五五 十一月十日 在天津船津總領事ヨリ
内田外務大臣宛

セミヨーノフ来津ニ関スル件

機密第一三四号

(十一月十六日接受)

大正十年十一月十日

在天津

總領事 船津 辰一郎(印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

本件ニ関シテハ本月八日発拙電第一二三号ヲ以テ不取敢及報告置キタル次第ナルガ同人ハ副官「ベルシヨフ」夫妻並其ノ一子ト共ニ本月五日入港ノ支那汽船順天号ニテ来津シ英国租界内「アストラハウス」ニ投宿中ナルガ其ノ後旧独逸租界内滞在中ノ同志「イワノフ」ト往復スル外専ラ人目ヲ避ケツツアリ同人ガ其ノ知人某ニ洩シタル消息ニ依レバ同人ハ上海滞在中猶太人側ノ牽制ヲ蒙ルコト甚敷ク且米仏両国領事ヨリ暫ク他ニ転居スルコトノ得策ナル旨勧告ヲ受ケ旁当地ニ移転シ来リシ趣ナルガ尙同人ハ大連會議ノ結果日本官憲ガ自身ヲ緝捕シテ知多政府ニ引渡スニ至ラザルカヲ懸念スルノ傍機會ヲ得テ小官ニ面晤シ自己ノ意中ヲ開陳シ且都合好クバ日本租界内ニ潜居シタキ希望ヲ有シ居レルヤノ模様ナリト云フ而シテ同人ノ妻ハ目下鎌倉滞在中ノ秘書「ルーチツヒ」(Luchich)ノ許ニ在リ今後当地ニ居住安定ヲ得バ妻女ヲモ当地ヘ迎ヘムトスルモノノ如ク而シテ旧同人配下ノ亡命者ニシテ当地ニ散在スルモノ少カラザル模様

様ナルヲ以テ其ノ行動ハ引続キ視察中ナリ

右報告申進候 敬具

本信写送付先

在支公使、在上海總領事

七五六 十一月十八日 内田外務大臣ヨリ
松島政務部長(大連出張中)宛
(電報)

浦潮政府ハ来年度ニ於ケルオコック勸察加治岸及ピーター大帝灣一帯ノ漁業權貸下ヲ行フ

計画ナル旨通報ノ件

第五三号

本月十四日浦潮發電東方通信ニ拠レバ浦潮政府ハ来年度ニ於ケル「オコック」勸察加治岸及彼得大帝灣一帯ノ漁業權貸下ヲ自己ノ手ニテ行フベク準備ニ著手セリト云フ依テ右ハ果シテ事實ナリヤ取調方在浦潮松村總領事ニ訓電シ置キタル処今般同總領事ヨリ露国当局ニ就キ本件ノ有無ヲ探リタルニ本計画ハ最近ノ閣議ニ於テ大体ノ方針決定済ニシテ目下貸下方法細則等ニ就キ起案中ナレバ追テ成案ノ上ハ発表スル筈ナリ尙邦人ノ既得權利ハ之ヲ擴張シ且開放漁区數

ヲ増加シ一層邦人ノ便利ニ供スル積リナル旨ヲ明言セル趣
回電アリタリ

七五七 十一月二十五日

華府會議全權ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

全露憲法議會代表者ト称スル者西比利亞ニ於
テ日本ニ特殊利益ヲ与フルコトニ反対ストノ
陳述書発表ノ件

會議第八三号

華府會議ニ関シ全露憲法議會代表者ト称シテ渡米シタル
Oksentief 及 Milinkoff ハ大要左ノ陳述書ヲ発表シタル
カ右ハ二十四日当地並ニ紐育ノ各新聞ニ掲載セラレタリ
新聞所報ニ依レハ日本ハ西比利亞ニ於ケル門戸開放機會均
等主義ヲ認め同時ニ日本ハ西比利亞ヨリ原料ヲ得日本品ノ
販路ヲ同地方ニ求ムル為平和的の侵入主義ノ承認ヲ要求シタ
ル趣ナルモ日本軍ハ度々撤兵ヲ声明シ乍ラ理由ヲ設ケテ之
ヲ実行セス其ノ所謂平和的の侵入ハ結局西比利亞ノ日本化ニ
過キス民主的の露国ハ西比利亞ノ開發ヲ為諸外国ノ救助ヲ希
望スルモ西比利亞及極東ニ於テ日本ニ特殊利益ヲ与フルコ
トニハ絶対ニ反対ス云々

ヨリ十一月二十一日平塚ヲ直接漁業長官ノ下ニ派シ前顯ニ
関シ聞キ糺サシメタル処先方ハ日露漁業協約ニ依ル明年度
漁区ノ貸下法ニ付テハ目下当地政權ニ於テ起案中ナル由ニ
テ漁業庁ヨリ政府ニ提出セル草案ハ遺憾ナカラ今直ニ明示
シ難ク日露間ノ既往ノ協約ヲ尊重スル以上大体ニ於テ從來
ト変化ナキモ政府ハ本件ニ関シ近々日本政府ト交渉ヲ為シ
度希望アリ其ノ結果ニ基キ明年度貸下漁区表ヲ発表スル考
ナルカ如ク是等事情ノ為自然明年度漁区開設希望ノ願書受
理期日モ例年ニ比シ多少遅延スヘキ旨語リタル趣回電アリ
タリ

七五九 十一月二十六日

在浦潮永井政務部長代理ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

浦潮政府ヨリ華府會議ニ委員派遣ノ件

第四七七号

(十一月二十七日接受)

当地政府ニ於テハ予テヨリ華府會議ニ委員派遣ノ計画アリ
タル処今回愈々「コレスニコフ」及「ボジスコ」ノ兩人ヲ
十一月三十日出帆ノ須磨丸ニテ出發渡米セシメ当地方ノ実
情ヲ説明シテ華府會議ノ参考ニ資スルコトナレリ「コ」
ハ永ク米國ニ在リテ教育ヲ受ケ帰來後当地非社会党ニ加入

一六 反過激派関係雑件 七五九 七六〇

七五八 十一月二十六日

内田外務大臣ヨリ
松島政務部長(大連出張中)宛
(電報)

明年度漁区貸下ニ付貸下方法細則漁区開設願
提出時期等松村總領事浦潮政府當局ニ問合ノ
結果通報ノ件

第五四号

往電第五三号ニ関シ

在浦潮松村總領事ニ對シ浦潮政府ニ於テ明年度漁区貸下ノ
件ハ我既得ノ漁業權ニ重大ナル關係アルノミナラズ明年度
ノ漁業對策ヲ決定スル為ニモ速ニ詳細承知シ置ク必要アル
ニ付出來得ル限リ速ニ詳細報告アリ度其ノ探知方ニ関シテ
ハ公然ノ方法ニ出デラルルモ差支ナク又貸下方法細則起草
中ナル趣ノ処從來ノ慣例ニ依レハ漁業行政庁ハ毎年告示ヲ
以テ十一月一日迄ニ漁区開設希望願ヲ日露漁業者ヨリ提出
セシメタル上漁区表ヲ発表シ來年度ニ於ケル露領沿岸ノ漁
業權貸下ヲ行フモノナレハ取急キ漁区開設願受理ノ告示ヲ
為スコト当然ノ順序ト思惟セラル、ガ其ノ辺ハ如何ナル計
画ナルヤ至急問合セ報告方電照シ置キタル処今般同總領事

シテ「メルクローフ」政府ノ外交部長トナリ一時内閣總理
ヲ兼ねタルコトアリ又「ボ」ハ元白耳義人ニシテ後国籍ヲ
露國ニ移シ最近白耳義名譽領事トナリ当地領事團書記ヲ兼
ネ居リタルモノニシテ政黨ニハ何等關係ヲ有セス
右大連ヘ転電セリ

七六〇 十二月十六日

在浦潮松村總領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

メルクローフ政權宛文書ノ宛名ニ官名ヲ記載
スベキヤ否ヤニ関シ請訓ノ件

第二三八号及第二九三号

(十二月十六日接受)

(第二三八号)

今回所用アリテ本官ヨリ当地政權内閣議長ニ宛テ文書ヲ發
シタルニ先方宛名ニ官名ノ記載無キハ形式ヲ成サズトノ理
由ヲ以テ突返シ來レリ依テ十二月十五日平塚ヲシテ「メル
クローフ」ニ對シ從來日本官憲ハ露國ノ各政府中列國承認
セザルモノニ對シテハ一律ニ一度モ露國官憲宛文書中宛名
ニ官名ヲ附シタルコト無ク今日迄露國官憲モ之ヲ諒シテ受
附ケ居リタルニ今回ニ限リ突返シ來リタルハ甚ダ其ノ意ヲ
得ズト其ノ理由ヲ質問セシメタル処「メルクローフ」ハ当

政権宛ノ文書宛名ニ官名ヲ附セザル時ハ自然公私ノ別ヲ案シ多数官吏中ニハ宛名ニ官名無キヲ奇貨トシ該文書ノ内容ヲ利用シテ私利ヲ図ル等ノ弊害有ルヲ發見シタルニ付今後内外人ヨリ接受スル文書ハ其ノ発信者が官憲タルト否トヲ問ハズ宛名ニ官名ヲ附セザルモノハ一切受附ケシメザル様夫々訓令ヲ發シタル次第ニテ何等理由アルニ非ズ要スルニ文書内容ノ如何ヲ問ハズ宛名ニ官名ヲ附セザレバ法理上私人トシテ取扱フベキモノナルヤ又ハ公人トシテ扱フベキモノナルヤ判明シ難キヲ以テ之ヲ一定セルモノナリト弁解シタル後現在在當地列国領事中露国官憲宛公文書宛名ニ官名ヲ附セザルハ日本領事ノミナリトテ英仏ノ各領事ヨリ發セル公文書ヲ実見セシメタルガ之ニ對シ平塚ハ貴国政府部内ノ都合及取扱振ノ如何ハ之ヲ知ラザルモ帝國官憲トシテハ露国内ノ如何ナル政權タルヲ問ハズ未承認中ハ其官憲ヲモ承認國ノ官憲ト同様ニ認メ難キニ依リ止ムヲ得ズ官名ヲ附セザル次第ニテ今後貴政權ニテ從來ノ通りノ形式ニ依ル當方ヨリノ文書ヲ受附ケズトノコトナラバ自今貴政權ト文書ヲ以テ事務上ノ交渉ヲ為スコト不可能ト成ルベク斯クテハ行懸上貴我官憲ノ没交渉ト成リ自然帝國領事ノ當地駐在ハ

無意義ト成ル次第ニ非ズヤト反問シタルニ(続ク)
(第二三九号)

彼ハ「ソハ致シ方ナシ」ト飽ク迄自己ノ主張ヲ固執シ却テ當方ノ再考ヲ求メタル趣ノ所卑見ニ依レバ當方ニ於テハ未承認政權ニ對シテハ飽ク迄我主張ヲ枉ゲズ從來ノ方針ニ依ルヲ至當ト思考セラルルモ斯クテハ最近當政權ノ万事ニ對シ鼻息荒キニ鑑ミ今後共自己ノ主張ヲ枉ゲズ日本側官憲ガ一切ノ交渉ヲ断絶スルトモ勝手ナリトノ態度ニ出ヅベシト想像セラルルモ然リトテ現ニ事務上ノ交渉案件日々輻湊ヲ極メツツアル際今後一切ノ交渉ハ口頭ノミヲ以テスルコトハ到底不可能ニシテ結局先方ニ於テ當方ヨリ發スル文書ヲ受附ケザル以上帝國領事駐在ノ効力ヲ失スベク事態甚ダ面白カラザル次第ニ立チ至ルベキカト思考セラルルニ付本件措置方ニ関シ至急何分ノ御回訓ヲ請フ尙近來當地政權ノ本邦商民ニ對スル態度激變シテ傲慢峻烈ヲ極メ毫倣借スル所ナキハ頗ル注意スベキコトニシテ右ハ畢竟最近全然融合セル「カッペリー」「セメノフ」兩殘軍ヨリ成ル當政府軍ガ破竹ノ勢ヲ以テ州内ノチタ軍ヲ驅逐シ目下「ハバロフスク」ノ南方二十余里ニ迄進出シ「ハ」府ノ陥落モ目睫ニ逼リ加

フルニ黒竜及「ザバイカル」ノ兩州ニモ各処ニ反「チタ」

軍蜂起シタリトテ政府当局ハ「チタ」政權ノ壽命モ來春迄ハ持タザルベシトノ意氣込ミヲ有スル一方大連會議ニ對スル帝國政府ノ態度ニ業ヲ煮ヤシ日本ニ對スル各種ノ不滿ヲ洩ラス一端ニ外ナラズト觀測セラルル筋アリ御參考迄申添ユ

七六一 十二月二十二日

在浦潮松村總領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

大連會議ニ関シメルクーロフ政權ヨリ抗議書

翰受領ニ付報告ノ件

第二四三号

(十二月二十二日接受)

十二月二十一日同二十日附書翰ヲ以テ當地政權臨時外交部長代理ヨリ左ノ通申越セリ

今次沿黒竜州政府ハ大連ニ於ケル日本チタ兩政府ノ代表者間ニ最近更ニモスコ―政府ノ派遣員ヲ参加セシメ左記ノ如ク会商中ナリトノ報告ニ接シタルヲ深ク遺憾トスルモノナリ

(一) 事實上沿黒竜州政府ノ管内ニ在リ且其ノ支配下ニ屬スル山林土地其ノ他ノ「コンセツション」ニ関スル問題ノ

審議中ナルコト

(一) 現ニ沿黒竜州政府管内ニ在リテ同政府ニ所屬スヘキ武器ノチタ共產政府ニ引渡問題ノ審議且決定セラレントスルコト

(二) 沿黒竜州政府員ニ對スル庄迫方ニ付チタ代表ノ要求ヲ日本側ニテ審議中ナルコト

(四) チタ政府又ハモスコ―政府ノ何レニモ屬セサル沿黒竜政府領海内ニ於ケル漁業權及土地ノ割讓問題ノ決定セラレントスルコト

右ニ関シ本官ハ政府ノ命ニ依リ左ノ理由ニ基キ日本政府ニ抗議ヲ為スモノナリ

(一) チタ又ハモスコ―兩政權ノ何レニモ屬セサルノミナラス事實上其ノ監督下ニモアラサル「コンセツション」及利權ニシテ實際ノ所有者タル沿黒竜政府ヲ度外視シテ上記ノ如キ交渉ニ依リ讓渡セラレタルモノニ對シテハ沿黒竜州政府ハ断シテ之ヲ承認セサルヘシ

(二) 列國ヨリ敵視サレツツアル共產政權ニ武器ヲ交付スヘク決定スルハ此種政權ノ不合理ナル勢力増加ヲ意味シ露国人民ニ戦争及荒廃ヲ招致スルモノニシテ此点ニ付テハ夙ニ

日本政府ニ於テ承知ノ答ナリ
沿黒竜政府ノ事実上ノ支配下ニ在ル土地及財産ニ関シ一切
ノ協定ヲ為サントスルハ遺憾ナカラ日本政府ハ或種ノ手段
ニ依リ沿黒竜政府ヲシテ有害ナル協約ヲ承認セシメ且之ニ
服從セシメントスルモノナリト思量セサルヲ得ス
按スルニ日本軍ノ沿海州駐屯ノ目的ハ地方ノ平和並秩序ノ

維持ニアルヘキ筈ナルニ前記事態ニ鑑ミ日本政府ハ其ノ真意
ニ付疑惑ヲ感スルモノナリ孰レニセヨ沿黒竜政府ハ一意日
本政府トノ親善関係ノ確保ニ努力中ナルニ上記ノ如キ日本
政府ノ措置ハ之ニ障碍ヲ及ホスモノト認メサルヲ得ス
右ニ関シ貴国政府ニ御伝達ヲ請フ

事項一七 「シベリア」出兵關係一件

附 米国軍艦機関長「ラングドン」射撃事件

七六二 一月二十二日

在浦潮菊池政務部長ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

極東共和国外相ヨリ内田外相宛日本軍ノ西比

利亜撤退等ニ関スル提案ノ覚書受領ノ件

第三七号

(一月二十二日接受)

一月二十一日「ツェトリン」来訪左記要旨ノ閣下宛「クラ
スノシチヨコフ」^(註) 発覚書ヲ手交セリ委細郵報

今ヤ極東露領ノ統一完成シ共和国ニ於テハ外国人亦露国臣
民ト同様生命財産完全ナルヲ得タリ日本軍ノ駐屯ハ不当ナ
ルノミナラス却テ害アリ此際両国平和關係ヲ作ル為日本軍
憲ガ共和国ノ内政ニ絶対ノ干渉ノ主義ヲ取ラルコト及撤
兵ノ期日ヲ定メラルコト必要ナリト思考ス尙共和国内ニ
ハ現ニ日本外交代表者存セザルニ顧ミ相互主義ニ基キ速ニ
政治經濟關係ヲ結ブノ目的ヲ以テ日本政府側ガ代表機關ヲ
東京ニ於テ受ケラレンコトヲ希望スト云フヲ主意トシ右
(不明)ノ間日本軍ハ依然強力ヲ以テ共和国ノ領土ヲ占領

一七 「シベリア」出兵關係一件 七六二 七六三

シ是ニ依リ被占領地ニ於ケル人民ノ生活ヲシテ堪ユ可カラ
サルモノタラシム等ノ語ヲ用ヒ盛ニ日本軍ヲ攻撃シ居レリ
註 菊池政務部長接受ノ覚書ハ後掲仮訳文(七九五文書)ノ原文
(英文)ト同文ナリ

七六三 三月三日

極東共和国外務大臣ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

日本軍ノ西比利亜撤退地域ヘノ再進軍ニ付極

東共和国政府ヨリ抗議ノ件

(三月八日接受)

地方官ノ報告ニ依レハ日本軍ハ所定ノ三十キロメートル地
帯ノ境域ヲ越エテ進軍シ本年二月二十三日「エフゲーニエ
フカ」駅ノ東方六十露里ニ位置スル「ヤーコヴレフカ」村
同村ノ東五露里ニ在ル「ボクロフカ」村及「アヌーシメイ
」村ト「ヤーコヴレフカ」村トノ中間ニ在ル「スイソソ
エフカ」村ヲ占領セリ斯ノ如キ日本軍ノ移駐ハ何等ノ理由
ナクシテ事態ヲ紛糾セシムルモノナリ日本出征軍司令官大

七八一